

気仙沼市立病院新改革プランの 平成29年度の実施に係る点検及び評価報告書 資料編



新改革プランについては、以下の区分で評価をしています

評価区分

A	定量的な目標	計画どおり目標が達成され、評価できる
	定性的な目標	組織一丸となってこれまで以上に取り組み、評価できる
B	定量的な目標	計画どおりの目標は未達成であるが、目標値に近く、やや評価できる
	定性的な目標	特定の部署がこれまで以上に取り組み、やや評価できる
C	定量的な目標	目標達成に向けた取組が不十分で、計画が未達成であり、今後の取組に期待する
	定性的な目標	これまでの取組と特に変わらず、今後の取組に期待する
D	定量的な目標	目標達成に向けた取組方法について検討段階であり、今後の取組に大いに期待する
	定性的な目標	これまでの取組より活動量が減り、今後の取組に大いに期待する
E	定量的な目標	未実施
	定性的な目標	未実施

新改革プラン 経営の効率化に向けた取り組み状況とその評価

気仙沼市立病院

市立病院では、移転を契機に病床管理の適正化や内視鏡等の中央化，医療機器の中央化について計画に沿った取り組みを拡充しています

市立病院 経営の効率化に向けた取り組み(1)

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	H29年度取り組み状況	評価	
市立病院	収益向上策	<ul style="list-style-type: none"> 病床管理の適正化 	<ul style="list-style-type: none"> 病床管理の責任者について，平日の昼は院長，夜間・休日は当直看護師長と定めた 診療科毎に病棟，割当ベッド数を定めているが，医師，看護師で病床利用率の最適化に向け柔軟な運用をしている 	B
		<ul style="list-style-type: none"> 診療部門と医事課の連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> 医師，看護師，コメディカルに対して，新たに算定可能な診療報酬項目についての勉強会などを定期的に開催 	C
		<ul style="list-style-type: none"> 未収金対策の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 前年と比較し，未収金残高が増加 特に，患者負担分の未収金発生額が約330万円増加 H29年度は専従職員を配置できなかったことや，移転に伴う業務量が増大したこと等から，訪問による未収金の徴収件数が減になった 	C
		<ul style="list-style-type: none"> 市民への健診（検診）啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 健診専門の医師が不在のため，従来どおり企業健診を中心に対応 	C
	費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品，診療材料，物品購入価の低減化 	<ul style="list-style-type: none"> 医療材料管理委員会を開催し，診療材料の新規購入申請に対して機能性と価格の両面で慎重に検討を実施 	C
		<ul style="list-style-type: none"> 内視鏡等の中央化 	<ul style="list-style-type: none"> 新築移転時に内視鏡室を増員し，体制を強化した 輸液ポンプ，シリンジポンプ，フットポンプ，人工呼吸器，ベッドサイドモニター，低圧吸引器，アフエレーシス用機械，溶解装置を中央管理化した 	A

サービス向上に向けた取り組みとして、移転と同時に外来診療の予約化を拡充しましたが、機能評価やボランティア活動については、未着手となりました

市立病院 経営の効率化に向けた取り組み(2)

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	H29年度取り組み状況	実績数値	評価
市立病院	<ul style="list-style-type: none"> 患者満足度調査 目標値 外来患者満足度:80% 入院患者満足度:82% 	<ul style="list-style-type: none"> 接遇向上委員会が中心となりながら、これまで患者満足度調査を実施 ※H29年度については、新築移転のため未実施 移転前では、患者用駐車スペースが少ないという不満が聞かれていたが、新築移転後は十分なスペースを確保したことで、不満を解消 	—	E
	<ul style="list-style-type: none"> 待ち時間短縮 	<ul style="list-style-type: none"> 外来診療待ち時間短縮を目指し、新病院移転後、予約受診の徹底により改善 外来待ち時間の状況から、診療科、医師毎で予約の取り方にバラツキがみられているという課題がある 	平均46分の短縮 (H27年7月とH30年1月との比較)	A
	<ul style="list-style-type: none"> 病院機能評価受審の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 検討中 	—	D
	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 未実施 	—	E

経営指標は、新築移転の影響で患者が一時的に減少した結果、収入が減少し、医業収支比率、経常収支比率ともに目標が未達成となりました

市立病院 収支改善に係る数値目標について

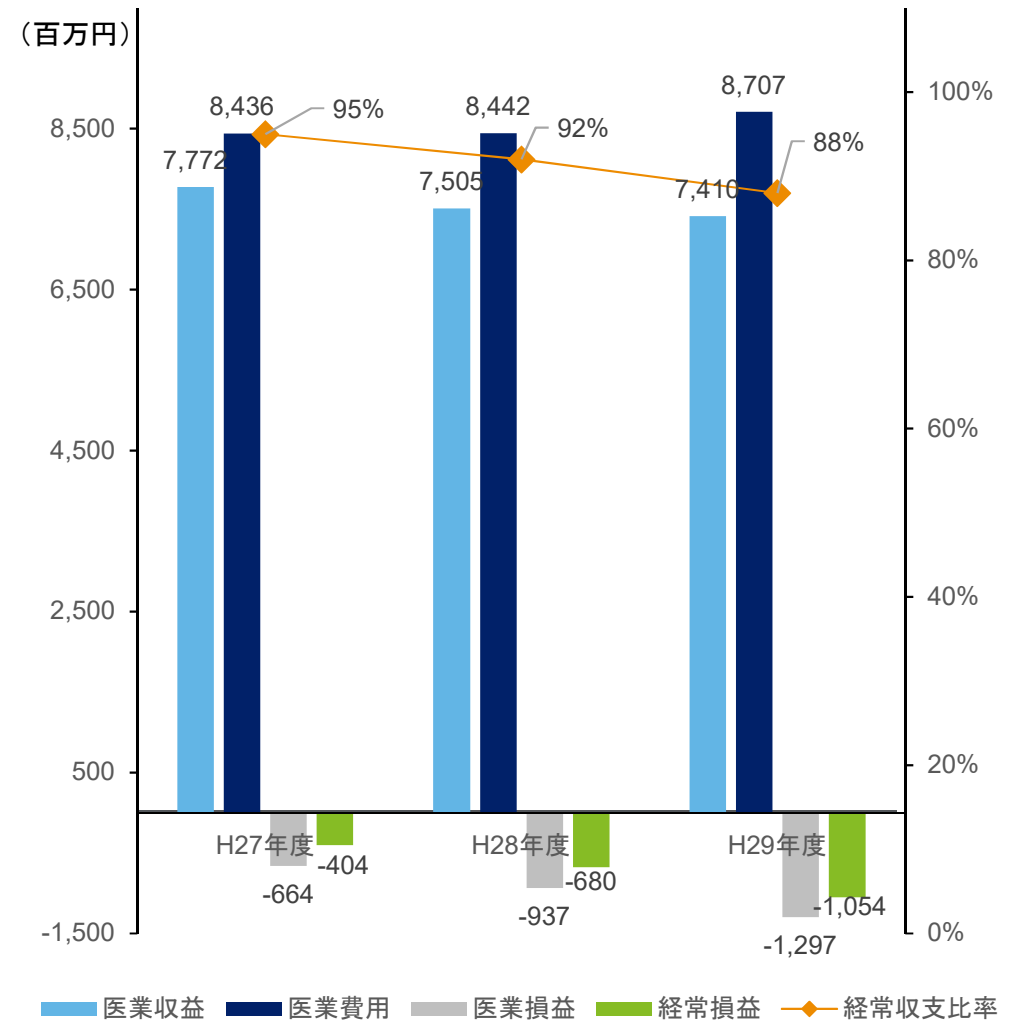
病院	新改革プランにおける目標	H29年度取り組み状況	実績数値	評価	
市立病院	収支改善	<ul style="list-style-type: none"> 経常収支比率(%) 目標値:91.3% 	<ul style="list-style-type: none"> 過去に算定した加算に関しては電子カルテ上にて管理しフィードバックを実施 	88.6%	C
		<ul style="list-style-type: none"> 医業収支比率(%) 目標値:89.1% 	<ul style="list-style-type: none"> 新築移転後に回復リハビリ病棟入院料1の取得に向けた準備 新たに算定が見込める診療報酬についての勉強会の実施 	85.1%	C
	経費削減	<ul style="list-style-type: none"> 職員給与費対医業収益比率(%) 目標値:49.4% 	<ul style="list-style-type: none"> 職種毎に定数管理を実施し、給与比率をコントロールするものの、収益減の影響により未達 	53.6%	B
		<ul style="list-style-type: none"> 材料費対医業収益比率(%) 目標値:23.0% 	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤新規採用ルールの徹底に向け、採用薬品数の推移を管理 医療材料管理委員会にて、定期的な見直し 	24.7%	C
	収入確保	<ul style="list-style-type: none"> 病床利用率(%) 目標値:74.4% 	<ul style="list-style-type: none"> 責任者を院長又は当直看護師長と定めて病床管理するも、新築移転の影響により目標値未達 	64.6%	C
		<ul style="list-style-type: none"> 1日当たり入院患者数(人) 目標値:280人 	<ul style="list-style-type: none"> 新築移転のため入院患者の受け入れを制限その結果目標患者数に未達 	243.6人	C
		<ul style="list-style-type: none"> 1日当たり外来患者数(人) 目標値:1,015人 	<ul style="list-style-type: none"> 開業医、ケアマネージャー等に対し連携報告会を病院が開催し、病診連携を実施 	988.7人	C
	安定化 経営	<ul style="list-style-type: none"> 医師数(研修医含む)(人) 目標値:54人 	<ul style="list-style-type: none"> 東北大学と医師派遣についての調整 	56人	A

市立病院では新築移転の影響があり、経常収支が悪化しています

市立病院の収益推移

損益計算書(単位:百万円)	H27年度	H28年度	H29年度
医業収益	7,772	7,505	7,410
医業費用	8,436	8,442	8,707
医業損益	△664	△937	△1,297
医業収支比率	92%	89%	85%
医業外収益	694	701	742
医業外費用	434	444	499
経常損益	△404	△680	△1,054
経常収支比率	95%	92%	88%
特別収益	0	0	1
特別費用	3	16	57
当期純利益	△407	△696	△1,110
当期繰越利益	△6,590	△6,997	△7,693
当期未処分利益	△6,997	△7,693	△8,803

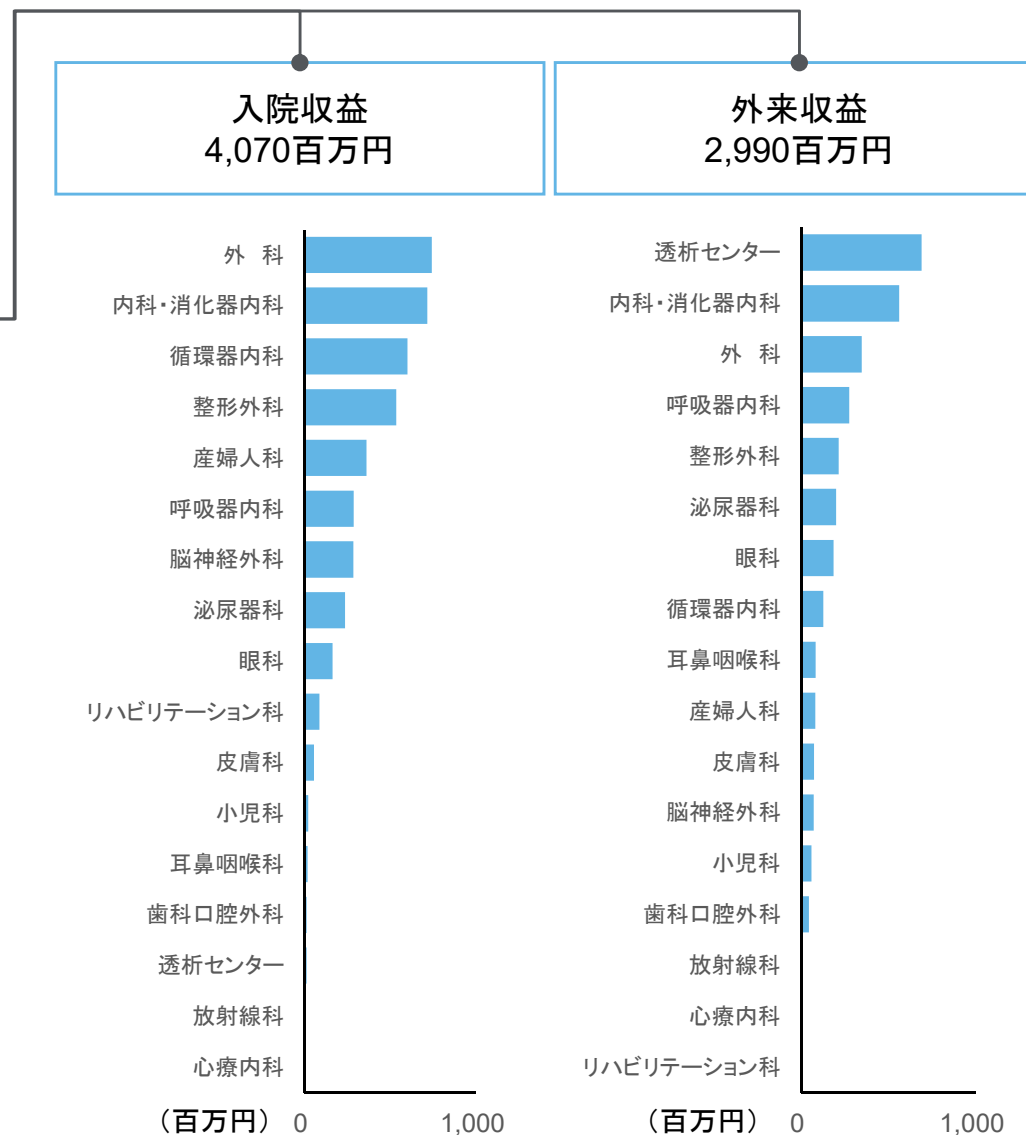
経常損益の推移



H29年度は入院収益で約40億円，外来収益で約30億円となっています 料金収入が目標未達成のため，経常収益の目標が未達成になりました

市立病院 H29年度新改革プラン(収益)

収入(単位:百万円)	H29年度 目標	H29年度 実績
1 医業収益	7,981	7,410
(1)料金収入	7,640	7,060
(2)その他	341	350
うち他会計負担金	224	220
2 医業外収益	674	742
(1)他会計負担金・補助金	553	612
うち基準外繰入	37	29
旧病院企業債利息分	37	29
新病院企業債利息分	0	0
(2)国(県)補助金	18	17
(3)長期前受金戻入	13	14
(4)その他	90	99
経常収益	8,655	8,152

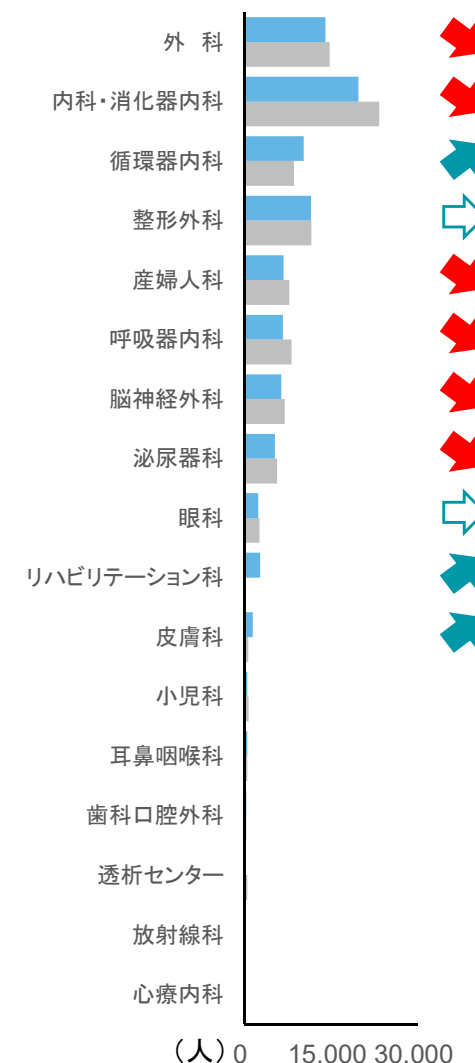
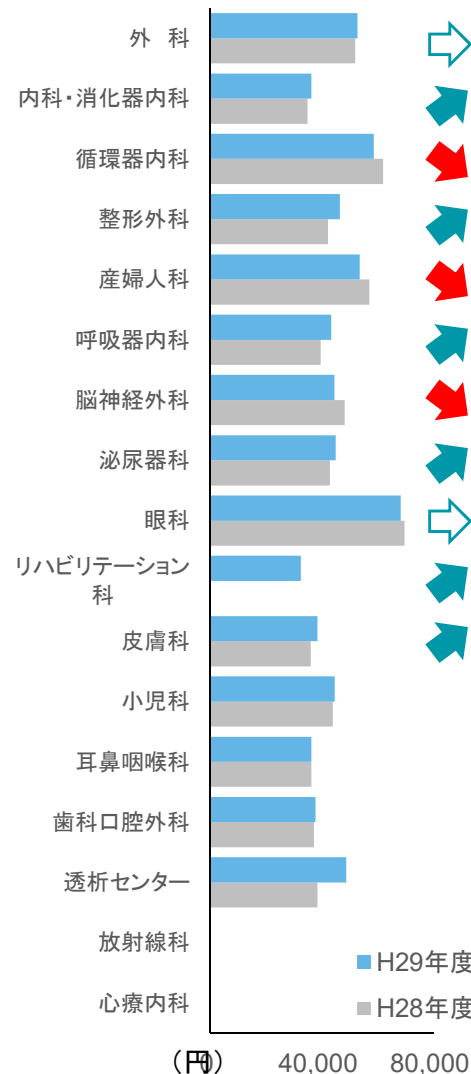
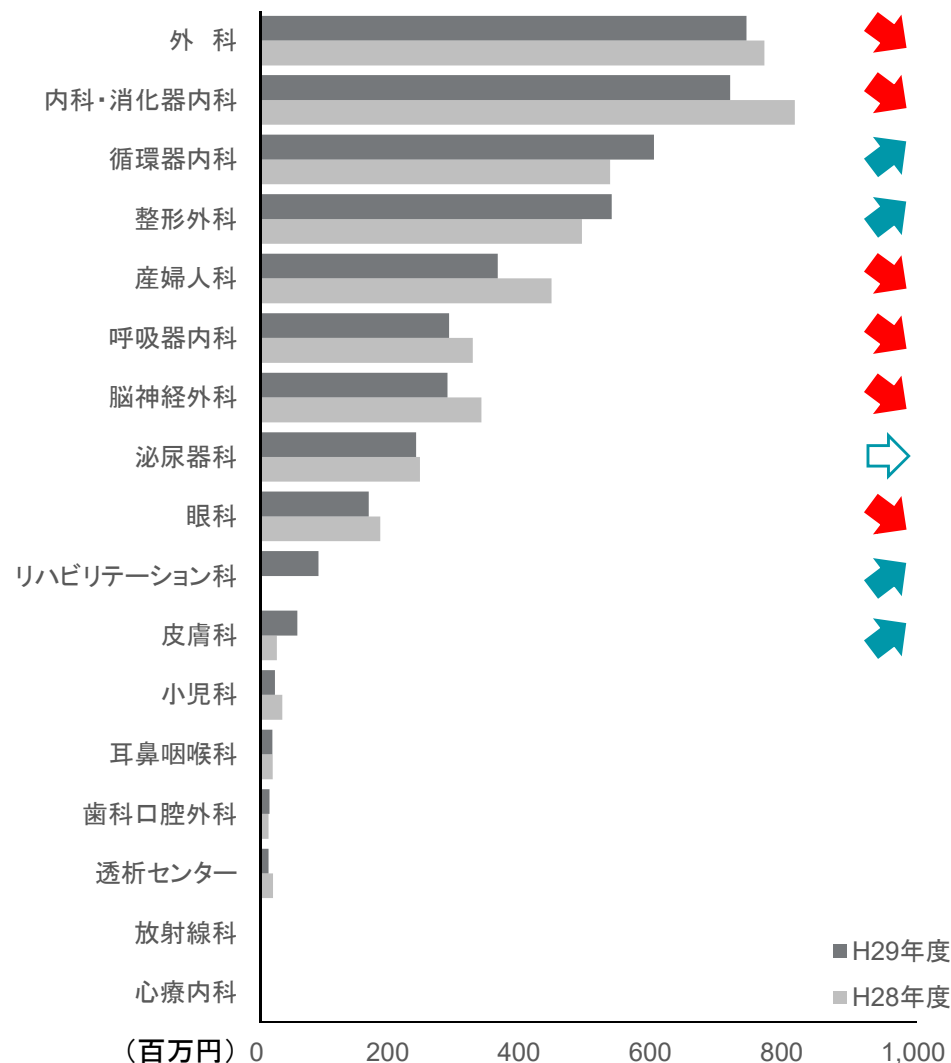


入院では、収入上位の診療科で患者数の減少がみられました その結果、医業収益の減少につながり、目標が未達成になったと考えられます

市立病院 H28年度～29年度の診療科等別推移(入院)

H29年度 入院単価: 45,769円
H28年度 入院単価: 45,392円

H29年度 延患者数: 88,931人
H28年度 延患者数: 92,409人



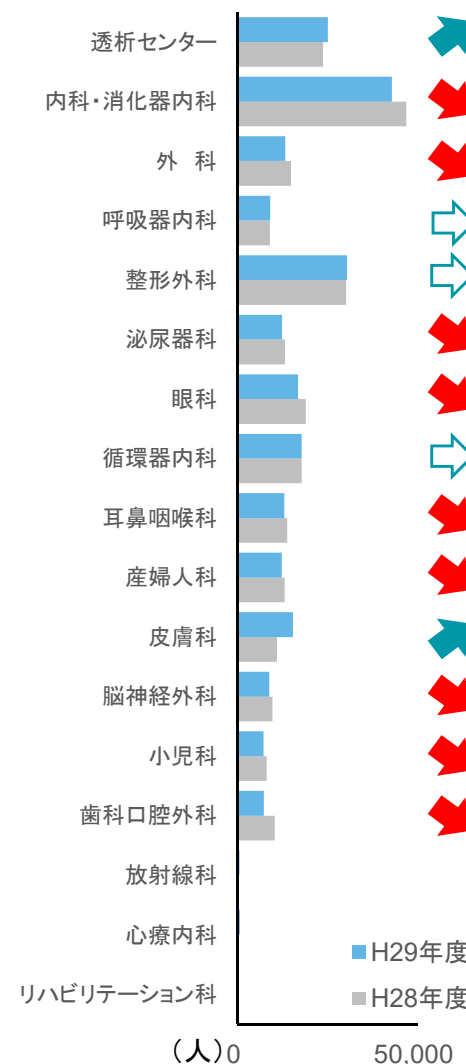
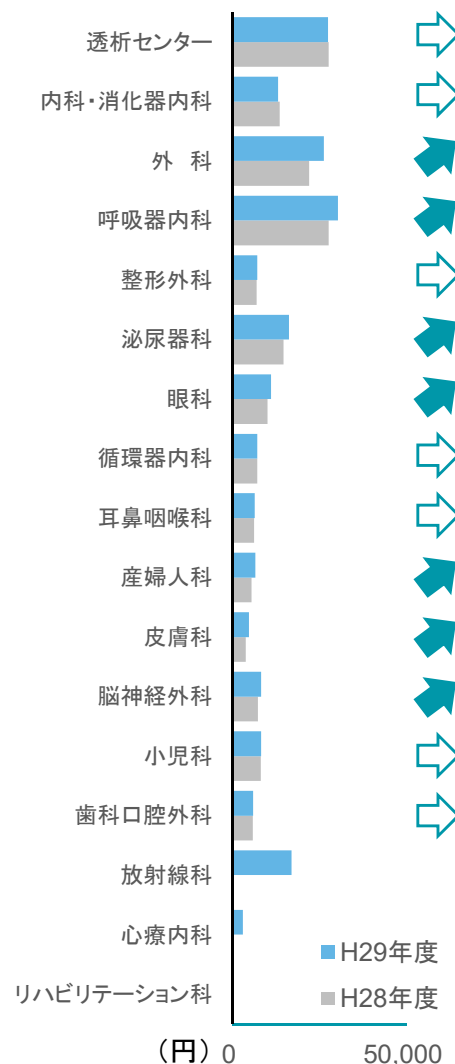
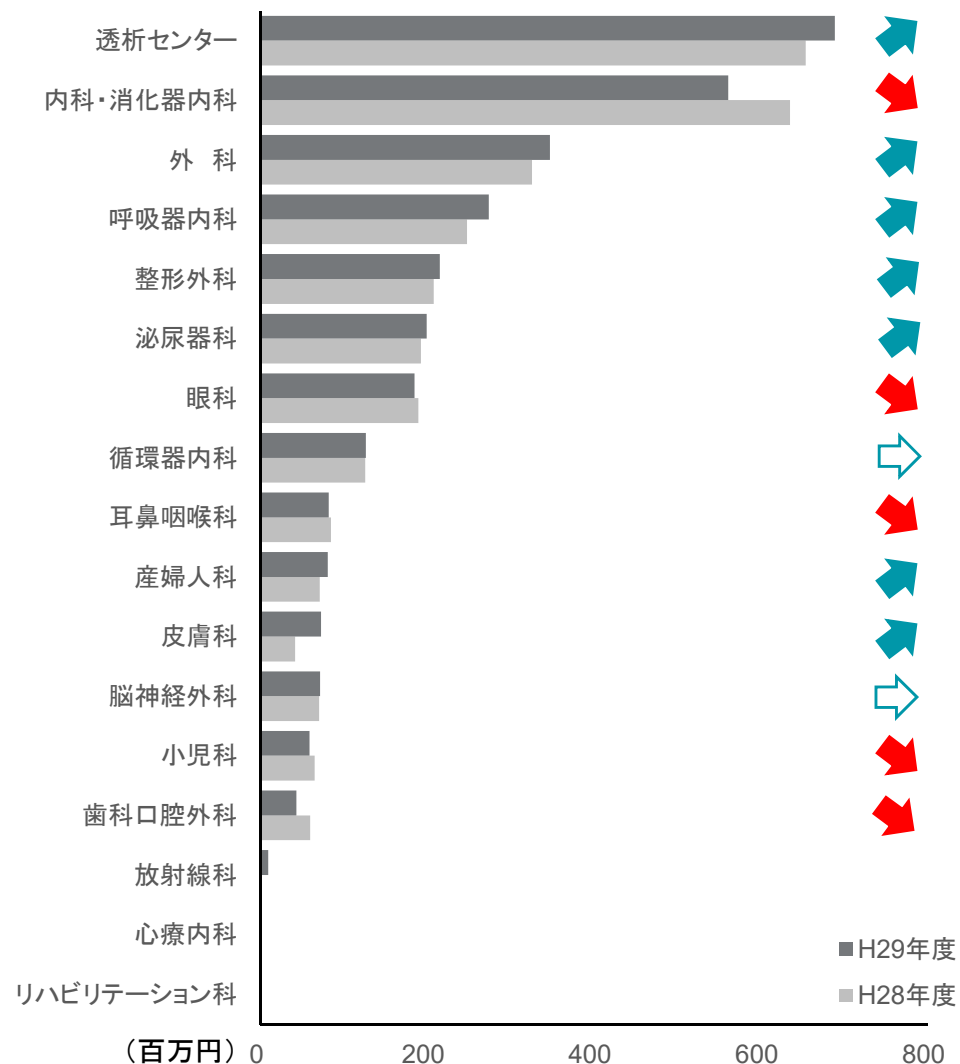
※入院患者1人1日あたりの診療収益を「入院単価」とする

外来では、患者数の減少が見られたものの、外来単価が上昇した診療科が多く、前年度と同程度の収益を確保することができました

市立病院 H28年度～29年度の診療科等別推移(外来)

H29年度 外来単価: 12,603円
H28年度 外来単価: 12,043円

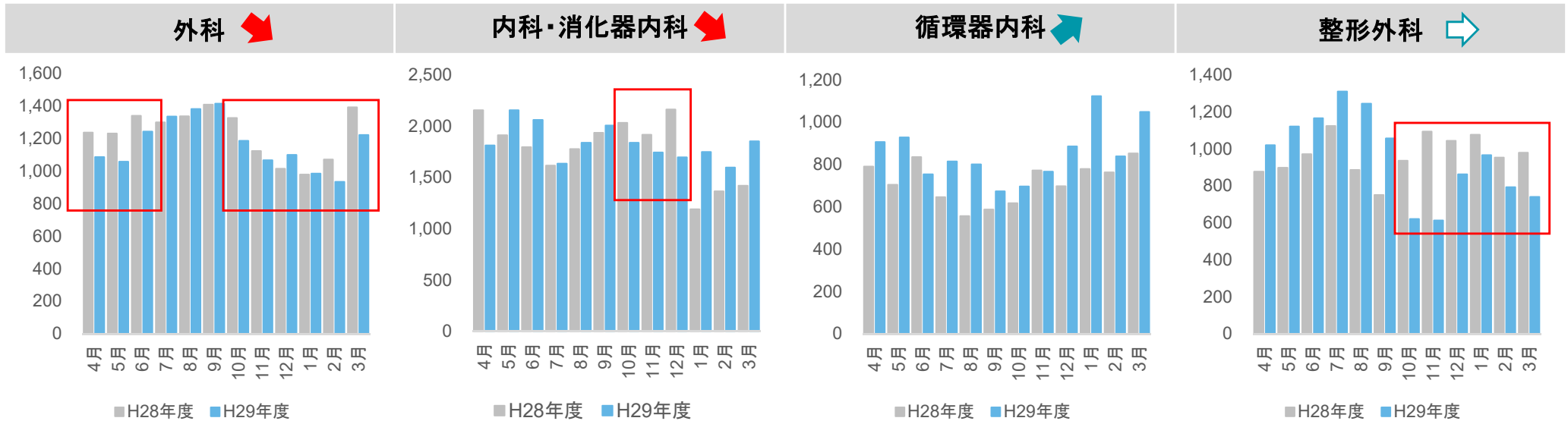
H29年度 延患者数237,290人
H28年度 延患者数244,526人



※外来患者1人1日あたりの診療収益を「外来単価」とする

入院患者減少の要因は、移転に伴う入院患者の受入制限による減少と考えられます

延患者数の変動要因分析



✓ H28年度とH29年度を比較すると、外科では、4月～6月で延患者数が減少したことに加え、移転前の10月以降で患者が減少しました

✓ H28年度とH29年度を比較すると、内科では、10月以降で延患者数が減少しました

✓ 移転が11月のため、入院の患者を制限した病床運営をしたことが患者減少につながったと考えられます

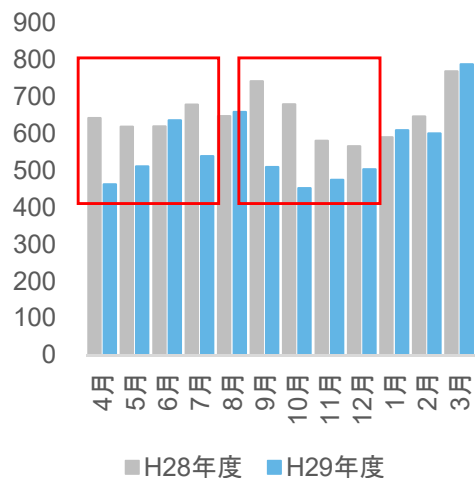
その後、徐々に患者数は増加し、1月以降は前年を上回る患者の入院に対応しました

✓ H28年度とH29年度を比較すると、循環器内科では移転の影響もほとんどなく、患者が増加しています

✓ H28年度とH29年度を比較すると、整形外科では、移転前の10月から延患者数が減少しましたが、その他の月では前年を超える多くの患者が入院しました

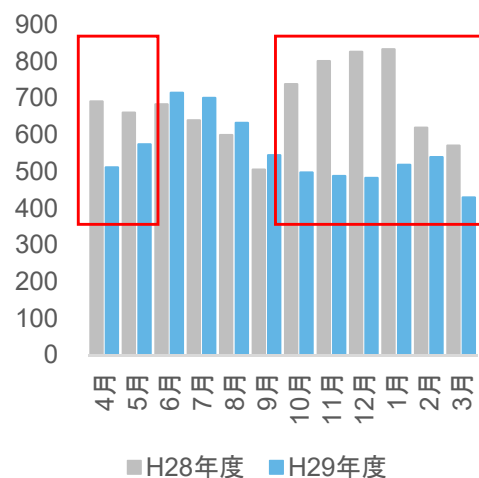
延患者数の変動要因分析

産婦人科



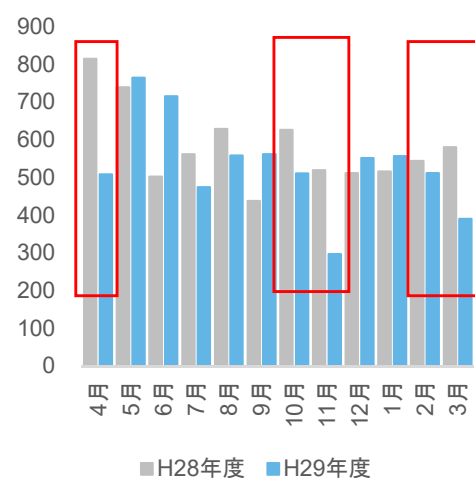
- ✓ H28年度とH29年度を比較すると、産婦人科では、4月～7月で延患者数が減少したことに加え、移転前後の9月～12月で患者が減少しました
- ✓ 移転が11月のため、分娩患者の受け入れ制限期間(10月～1月)を中心に患者数が大きく減少しました

呼吸器内科



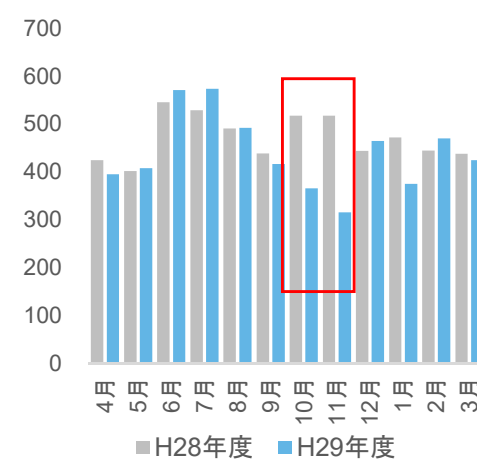
- ✓ H28年度とH29年度を比較すると、呼吸器内科では、4月～5月で延患者数が減少したことに加え、移転前の10月以降、各月で患者が減少しました

脳神経外科



- ✓ H28年度とH29年度を比較すると、脳神経外科では、移転前の10月と11月に患者数が減少しました

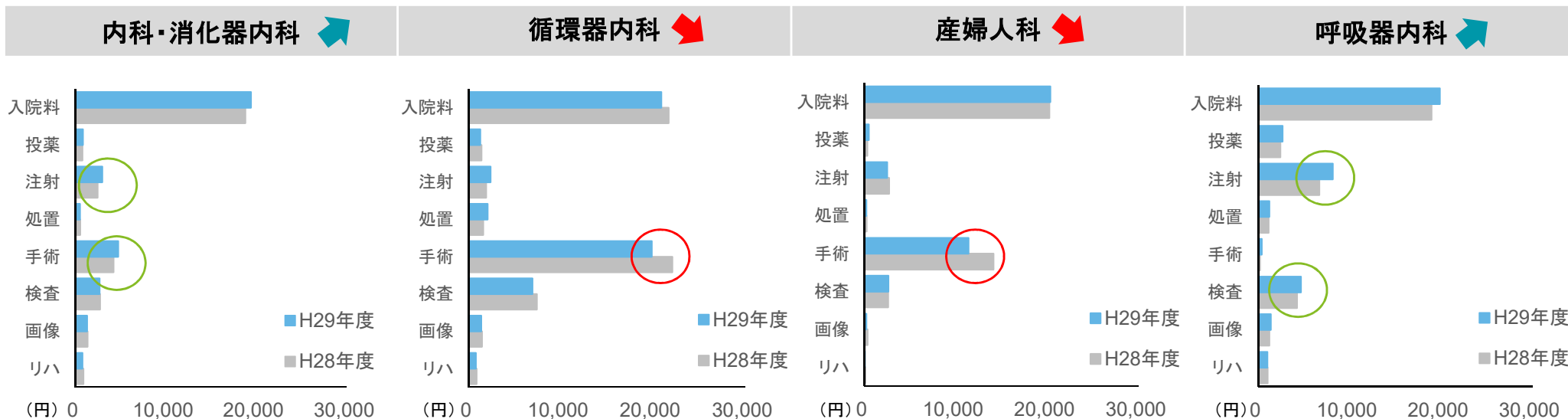
泌尿器科



- ✓ H28年度とH29年度を比較すると、泌尿器科では、移転前の10月と11月に患者数が減少しました

入院単価の変動は手術単価の変動によるところが大きいと考えられます

入院単価の変動要因分析



✓ H28年度とH29年度を比較すると、入院料、注射、手術の診療区分の影響で、入院単価が上がりました

✓ 手術については、H29年度の新築移転の影響で大腸内視鏡治療の患者は大きく減少しましたが、ESTがH29年度は増加しており、その影響で手術の単価が上がったと考えられます

※EST: 内視鏡的乳頭切開術

✓ H28年度とH29年度を比較すると、入院料、手術の診療区分の影響で、入院単価が下がりました

✓ 手術について、H29年度はPCIが新築移転の影響で大幅に減少したことに加え、急性心筋梗塞に対するPCIの患者が減少したことで、手術の単価が下がったと考えられます

※PCI: 経皮的冠動脈形成術

✓ H28年度とH29年度を比較すると、手術の診療区分の影響で、入院単価が下がりました

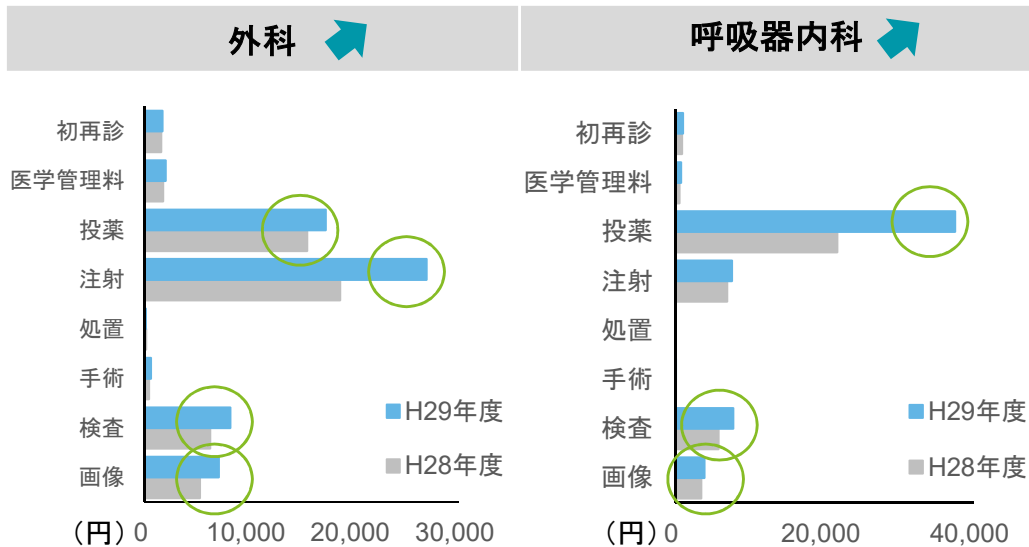
✓ 手術について、H29年度は子宮の悪性腫瘍手術、子宮附属器の悪性腫瘍手術が大きく減少したことで、手術の単価が下がったと考えられます

✓ H28年度とH29年度を比較すると、入院料、注射、検査の診療区分の影響で、入院単価が上がりました

✓ 傾向として、抗がん剤の使用量や、抗真菌薬の使用量が増えており、その結果、注射の単価が上がったと考えられます

外科・呼吸器内科では、抗がん剤使用量が増加した結果、外来単価が上昇したと考えられます

外来単価の変動要因分析



- ✓ H28年度とH29年度を比較すると、投薬、注射、検査、画像の診療区分の影響で、外来単価が上昇しました
- ✓ 注射については、抗がん剤の使用量が増えており、その結果、注射の単価が上昇したと考えられます

- ✓ H28年度とH29年度を比較すると、投薬、検査、画像の診療区分の影響で、外来単価が上昇しました
- ✓ 投薬については、抗がん剤(タゲリッソ錠)の使用量が増えており、その結果、投薬の単価が上昇したと考えられます

H29年度の市立病院の支出は、目標範囲内の支出となりましたが収入が減少しているため、医業収益対比率は目標値を超過しています

市立病院 H29年度新改革プラン(費用)

支出(単位:百万円)	H29年度 目標	H29年度 実績	達成状況
1 医業費用	8,958	8,707	○
(1)職員給与費	3,944	3,974	×
(2)材料費	1,838	1,827	○
(3)経費	2,655	2,393	○
(4)減価償却費	473	465	○
(5)その他	48	48	○
2 医業外費用	524	499	○
(1)支払利息	99	81	○
(2)その他	425	418	○

市立病院 H29年度新改革プラン(医業収益対比率)

支出(単位:%)	H29年度 目標	H29年度 実績	達成状況
1 医業費用	112.2%	117.5%	×
(1)職員給与費	49.4%	53.6%	×
(2)材料費	23.0%	24.7%	×
(3)経費	33.3%	32.3%	○
(4)減価償却費	5.9%	6.3%	×
(5)その他	0.6%	0.6%	○
2 医業外費用	6.6%	6.7%	×
(1)支払利息	1.2%	1.1%	○
(2)その他	5.3%	5.6%	×

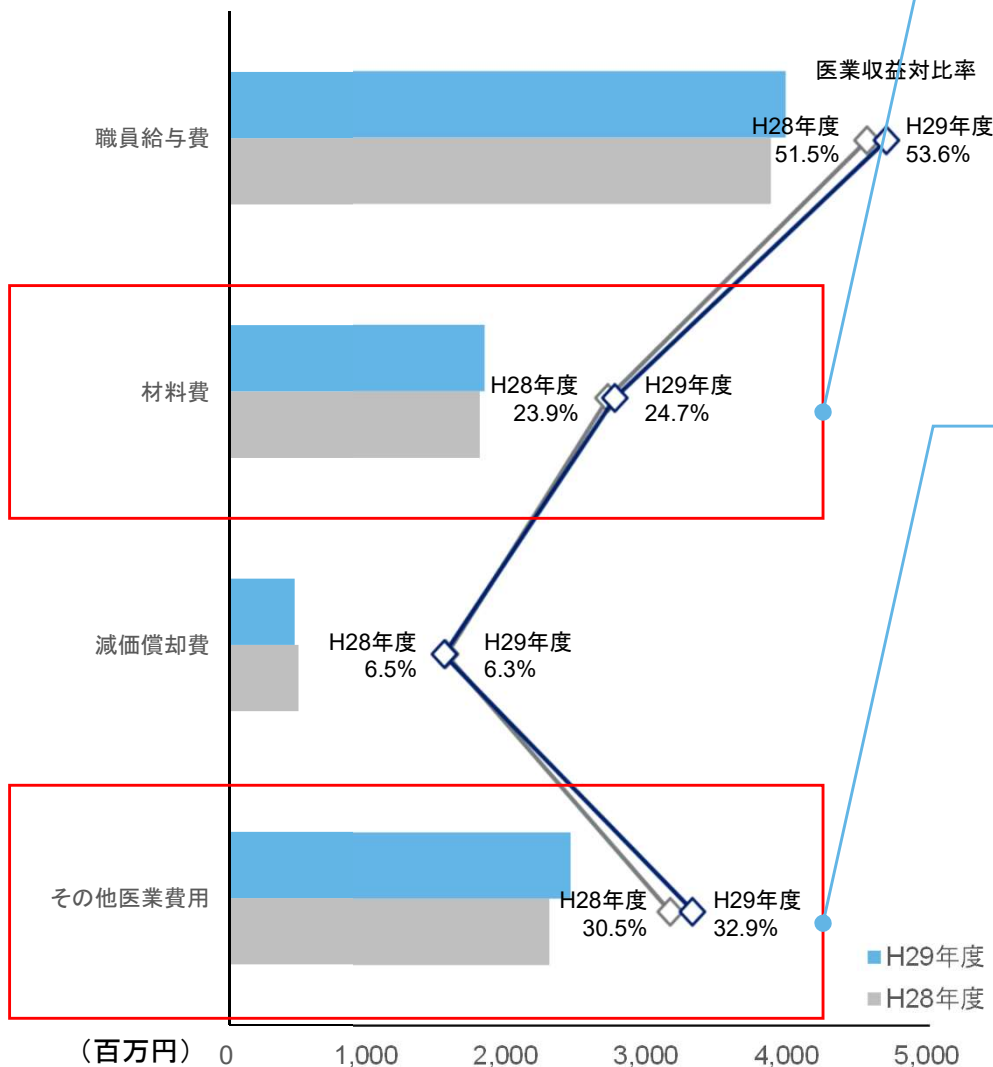
表中の達成状況の凡例

○ :新改革プランの目標値範囲内の実績となった

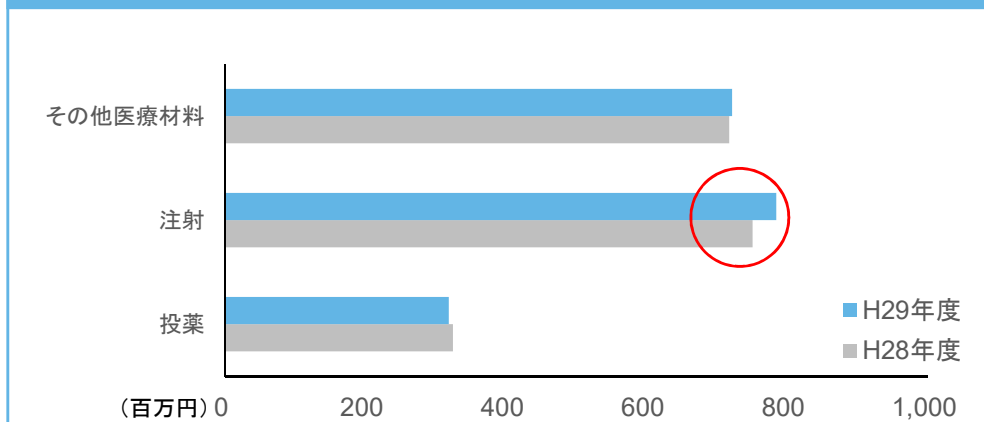
× :新改革プランの目標値を超過する実績となった

市立病院では材料費の削減の取り組んできましたが、経営数値に反映させることがまだ十分にできていません

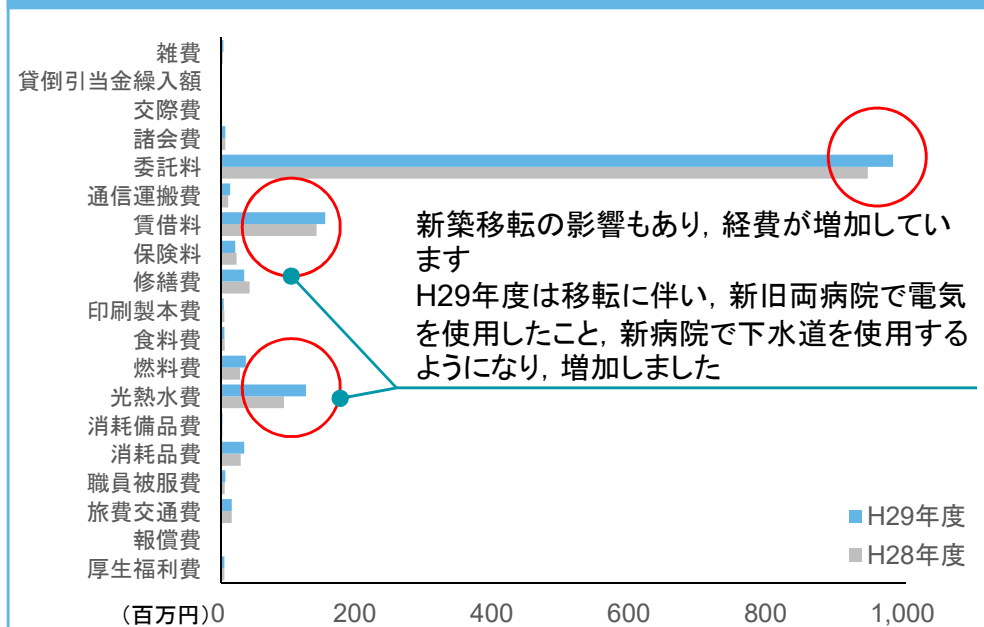
市立病院 H28年度～29年度 費用内訳別推移



材料費の内訳毎の年度推移



その他医業費用のうち、経費の内訳毎の年度推移



気仙沼市立本吉病院

本吉病院単体で可能な施策を中心に取り組みました

本吉病院 経営の効率化に向けた取り組み

病院	新改革プランにおける目標		H29年度取り組み状況	評価
本吉病院	収益向上策	<ul style="list-style-type: none"> 診療部門と医事部門の連携 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅療養支援病院の取得について、医師、看護師、管理課が中心となって検討を行ってきたものの、土日・休日の在宅対応についてのさらなる検討が必要な状況 	B
		<ul style="list-style-type: none"> 未収金対策の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 年間10万円程度と、発生状況は少額に抑えられている 	A
		<ul style="list-style-type: none"> 市民への検診啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 職場健診は継続して対応し、地域住民の疾病予防に努めている 地域包括ケアの市民フォーラムを開催している 	C
	削減策	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品、診療材料の節減 	<ul style="list-style-type: none"> 管理課が中心となり、価格交渉、在庫管理を継続して行った 	A
	サービス向上策	<ul style="list-style-type: none"> 患者満足度調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> H29年度は取り組み未実施 H31年度に患者満足度調査の実施に向けて、時期や質問項目についてH30年度から検討を行う予定 	E
		<ul style="list-style-type: none"> 待ち時間短縮 	<ul style="list-style-type: none"> 予約診療の定着により、待ち時間の短縮が図れていると思われるが、客観的指標を得ていないため、引き続き統計をとる 	C

経営指標は、入院患者数が目標以上の実績となったため、経常収支比率、医業収支比率ともに目標数値を達成することができました

本吉病院 収支改善に係る数値目標について

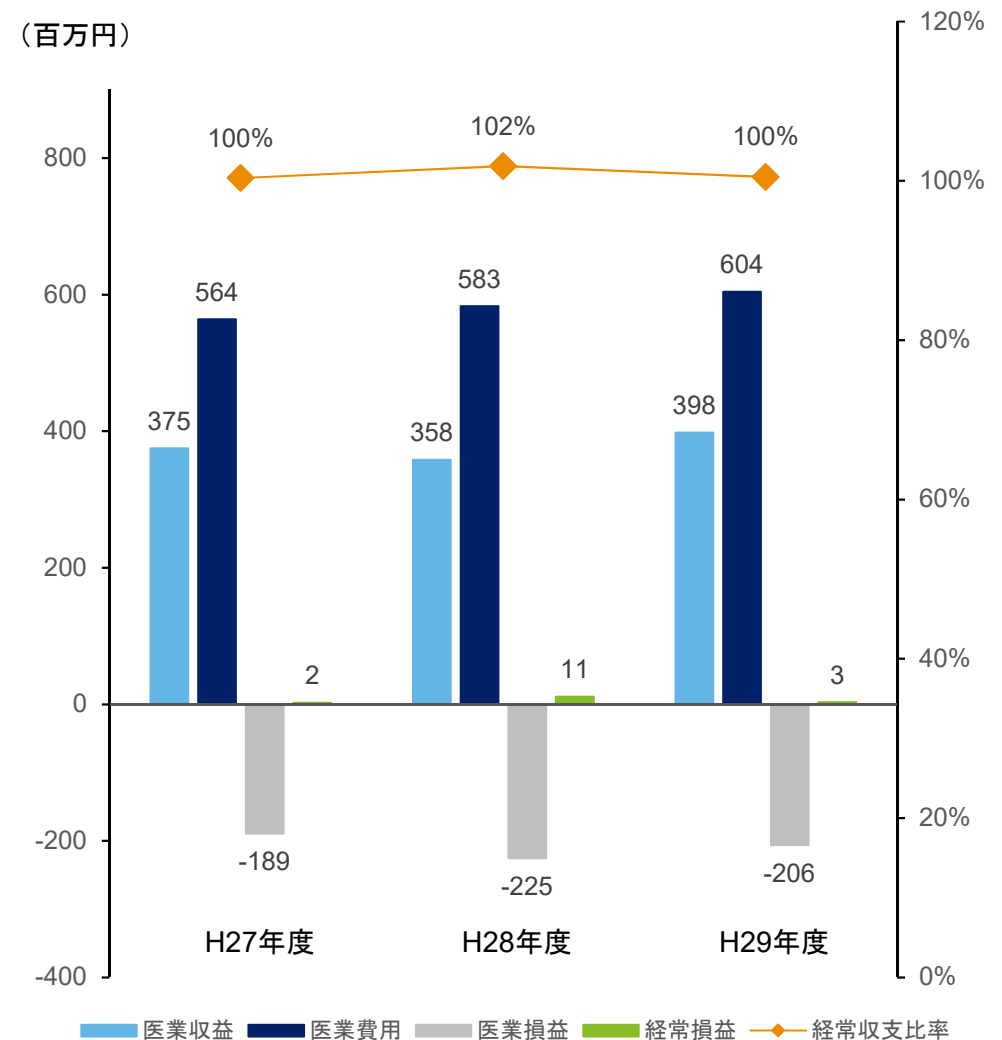
病院	新改革プランにおける目標		H29年度取り組み状況	実績数値	評価
本吉病院	収支改善	<ul style="list-style-type: none"> 経常収支比率(%) 目標値:99.3% 	<ul style="list-style-type: none"> 入院患者の適切な受入れと医師・看護師主導によるベッドコントロールを実施した結果、入院患者が増加した 総合診療を中心とした診療を行うと同時に、在宅患者も積極的に受け入れた結果、外来、訪問診療の収益が増加した 	100.5%	A
		<ul style="list-style-type: none"> 医業収支比率(%) 目標値:56.9% 		65.8%	A
	削減	<ul style="list-style-type: none"> 職員給与費対医業収益比率(%) 目標値:95.0% 	<ul style="list-style-type: none"> 経営幹部(院長、管理課長等)にて、市と人員について意見交換を実施し、適正な人員配置の検討を行った 	99.1%	B
	収入確保	<ul style="list-style-type: none"> 病床利用率(%) 目標値:68.0% 	<ul style="list-style-type: none"> 入院患者の適切な受入れと医師・看護師主導によるベッドコントロール、市立病院との連携を実施 	68.6% (29床で計算)	A
		<ul style="list-style-type: none"> 1日当たり入院患者数(人) 目標値:17人 		19.9人	A
		<ul style="list-style-type: none"> 1日当たり外来患者数(人) 目標値:115人 		<ul style="list-style-type: none"> 総合医療を中心とした診療を行うと同時に、在宅患者も積極的に受けれた結果、外来患者が増加 	115.6人
	安定化	<ul style="list-style-type: none"> 医師数(研修医含む)(人) 目標値:4人 	<ul style="list-style-type: none"> 常勤医の確保について、宮城県や東北大学病院等への要請を行った 家庭医療後期研修医」制度による研修医の育成 	3人	B

H29年度は医業収益が約4億円となり、前年と比べ医業収支が改善しました

本吉病院損益計算書の推移

損益計算書(単位:百万円)	H27年度	H28年度	H29年度
医業収益	375	358	398
医業費用	564	583	604
医業損益	△189	△225	△206
医業収支比率	66%	61%	66%
医業外収益	204	249	223
医業外費用	13	13	14
経常損益	2	11	3
経常収支比率	100%	102%	100%
特別収益	0	1	0
特別費用	0	0	0
当期純利益	2	12	3
当期繰越利益	△128	△126	△114
当期未処分利益	△126	△114	△111

経常損益の推移

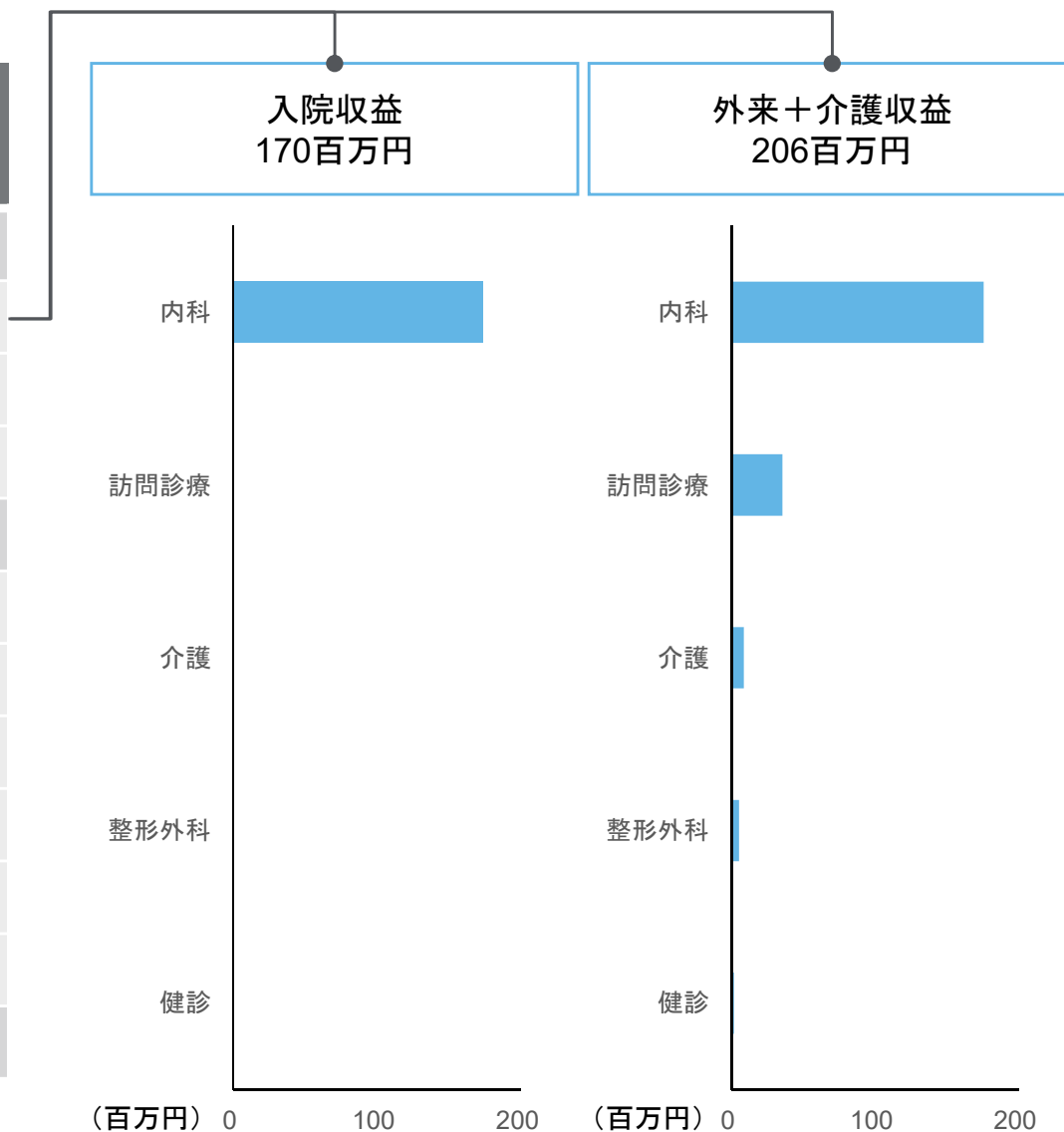


出所: 決算報告書から作成

医業収益は新改革プランの目標数値を達成しました

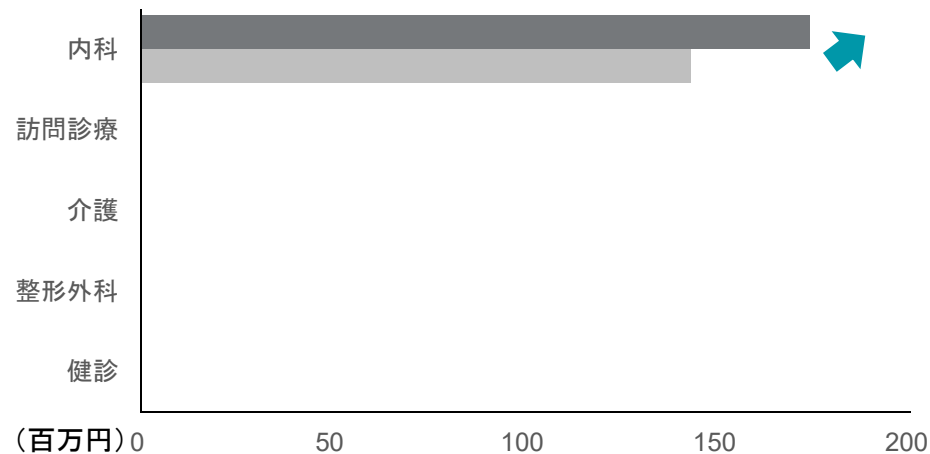
本吉病院 H29年度新改革プラン(収益)

収入(単位:百万円)	H29年度 目標	H29年度 実績
1 医業収益	351	398
(1)料金収入	331	376
(2)その他	20	22
うち他会計負担金	0	0
2 医業外収益	270	223
(1)他会計負担金・補助金	240	190
うち基準外繰入	0	4
任期付職員人件費	0	4
(2)国(県)補助金	0	3
(3)長期前受金戻入	29	29
(4)その他	0	1
経常収益	620	621



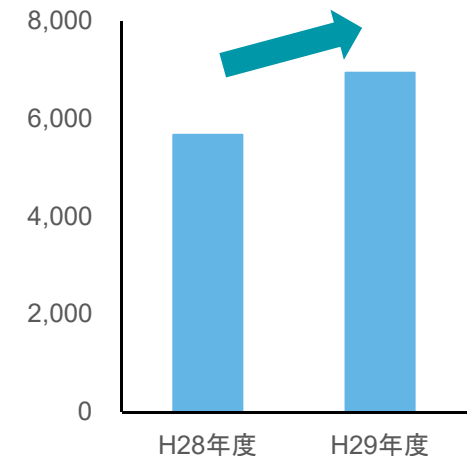
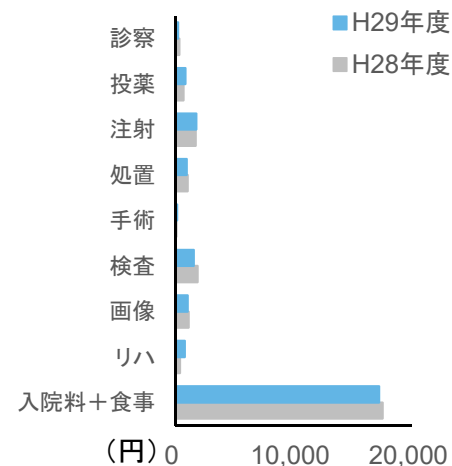
医業収益の増加は入院・外来ともに患者数が増加したことが要因です

本吉病院 H28年度～29年度の診療科別推移(入院)

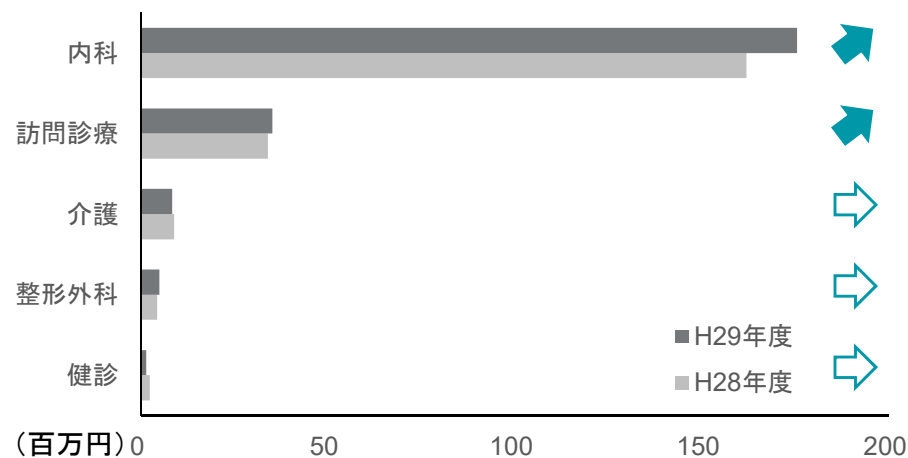


H29年度 入院単価: 23,420円
H28年度 入院単価: 23,556円

H29年度 延患者数: 7,278人
H28年度 延患者数: 5,971人

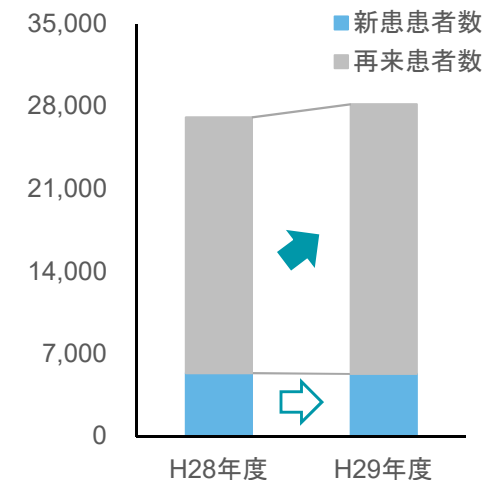
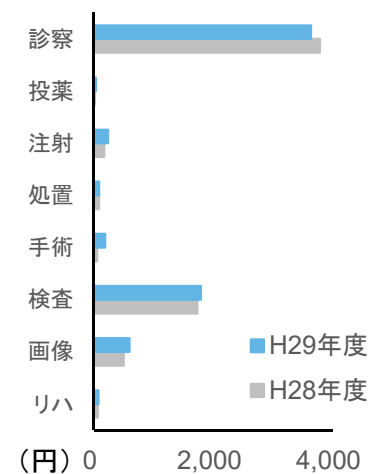


本吉病院 H28年度～29年度の診療科別推移(外来・介護)



H29年度 外来単価: 7,318円
H28年度 外来単価: 7,157円

H29年度 延患者数28,199人
H28年度 延患者数27,066人



支出については、給与費、材料費で目標金額を上回ってしまいましたが、医業収益比率で見ると、材料費は目標数値内で抑えられています

本吉病院 H29年度新改革プラン(費用)

支出(単位:千円)	H29年度 目標	H29年度 実績	達成状況
1 医業費用	616,447	604,354	○
(1)職員給与費	333,069	394,134	×
(2)材料費	47,300	52,712	×
(3)経費	192,000	113,639	○
(4)減価償却費	42,778	42,854	×
(5)その他	1,300	1,015	○
2 医業外費用	8,107	13,907	×
(1)支払利息	1,107	1,056	○
(2)その他	7,000	12,851	×

本吉病院 H29年度新改革プラン(医業収益対比率)

支出(単位:%)	H29年度 目標	H29年度 実績	達成状況
1 医業費用	175.9%	152.0%	○
(1)職員給与費	95.0%	99.1%	×
(2)材料費	13.5%	13.3%	○
(3)経費	54.8%	28.6%	○
(4)減価償却費	12.2%	10.8%	○
(5)その他	0.4%	0.3%	○
2 医業外費用	2.3%	3.5%	×
(1)支払利息	0.3%	0.3%	○
(2)その他	2.0%	3.2%	×

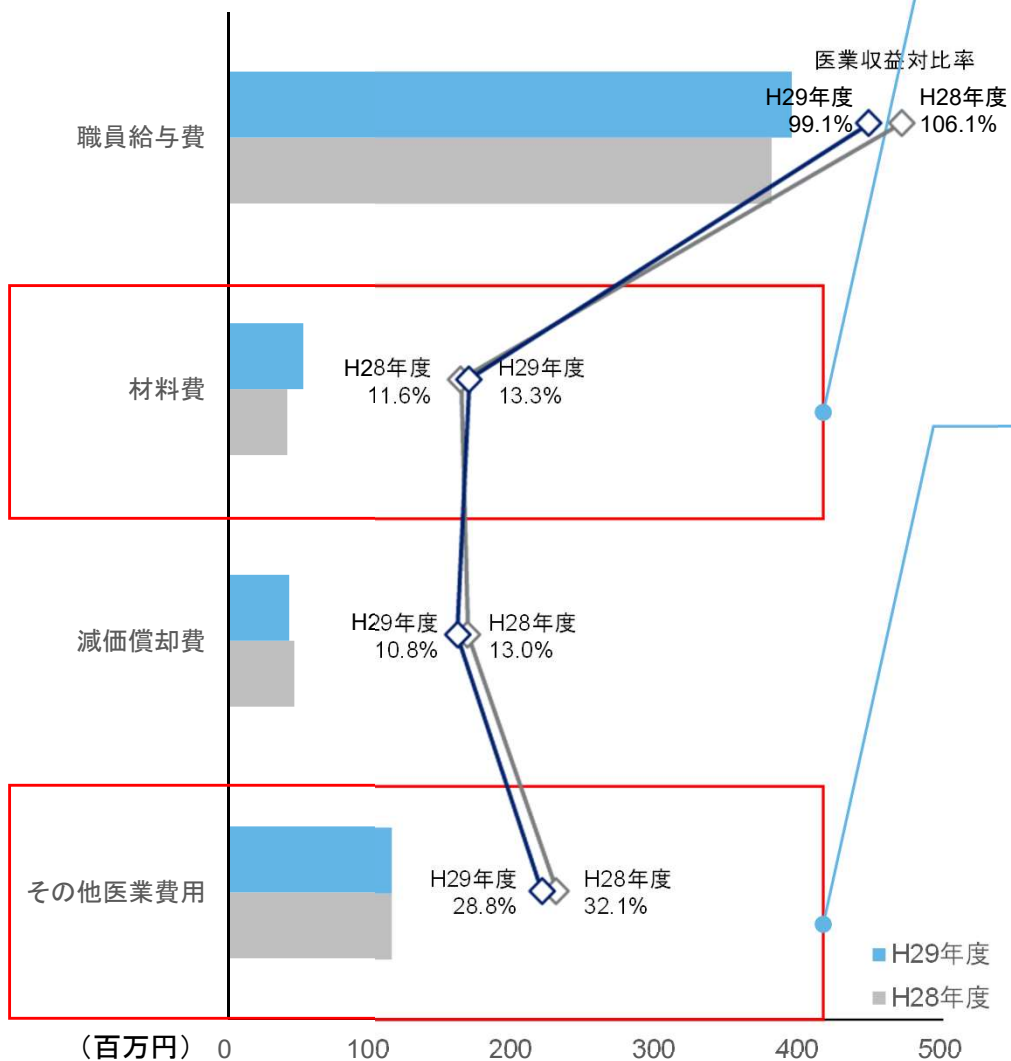
表中の達成状況の凡例

○ :新改革プランの目標値範囲内の実績となった

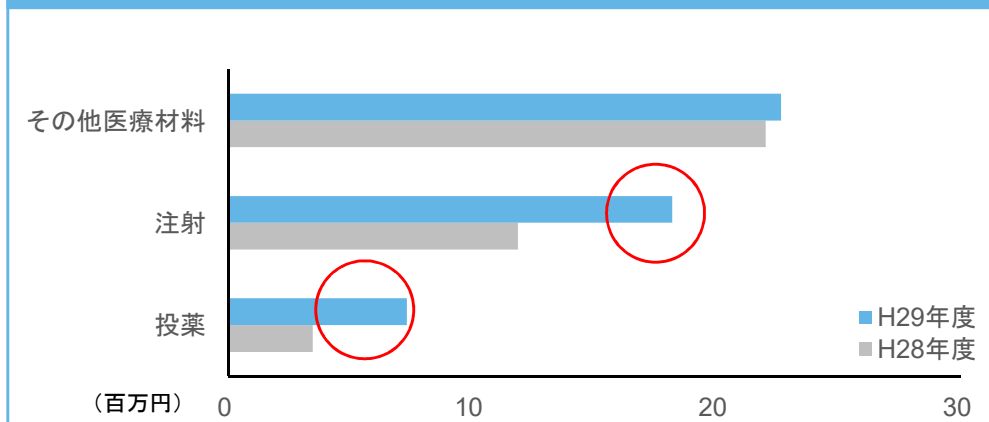
× :新改革プランの目標値を超過する実績となった

患者増加に伴い、医薬品(注射・投薬)費用が増加しましたが、医療材料は微増でした

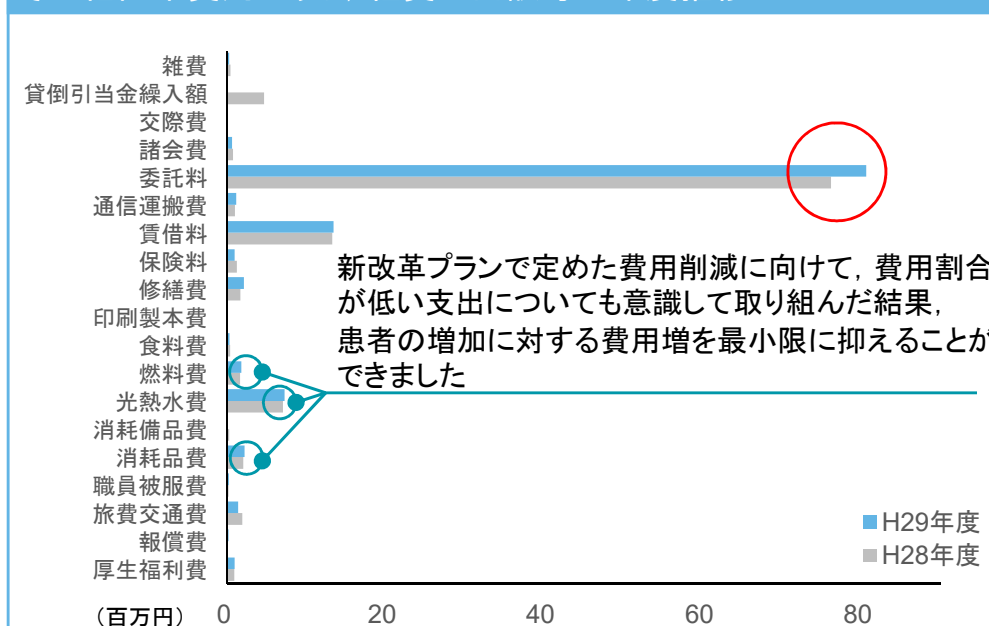
本吉病院 H28年度～29年度 費用内訳推移



材料費の内訳毎の年度推移

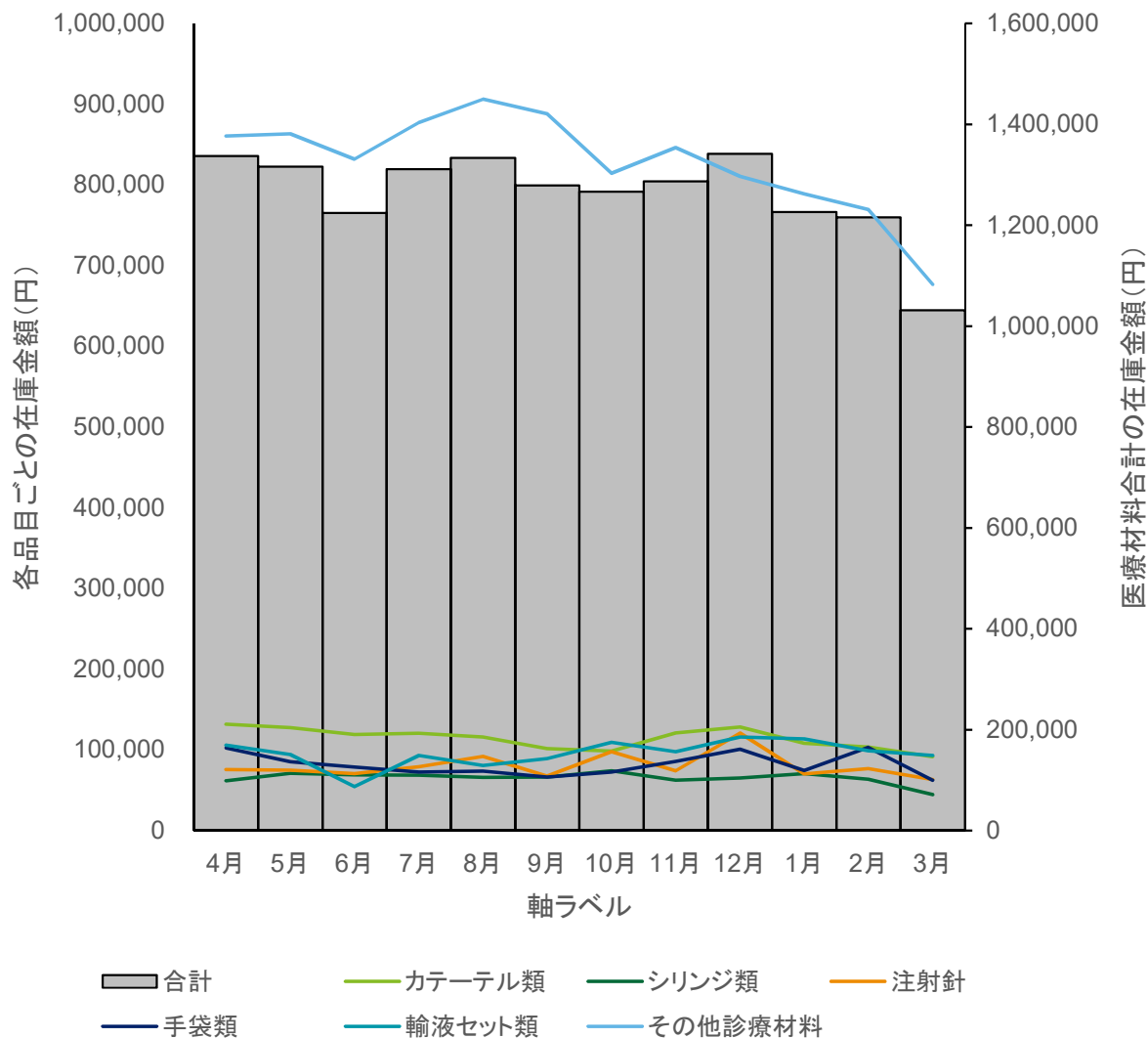


その他医業費用のうち、経費の内訳毎の年度推移



H29年度の費用削減の行動目標を意識しながら、在庫管理を行った結果が、前頁で示した医療材料費の増加を最小限に抑えることにつながったと考えられます

医療材料のH29年度の在庫推移



H29年度の医療材料の在庫金額の推移について

【新改革プランで定めた行動目標】

医薬品や診療材料については、在庫等の量を把握しながら必要最小限の購入を進め、経費の削減に努めます。

- ✓ 医療材料合計の在庫金額は、128.5万円／月で推移しました
月による若干のばらつきはあるものの、3月を除き130万円前後で推移していることから、病院として在庫金額を一定程度に抑えるように工夫、努力してきました

新改革プラン 地域医療構想を踏まえた役割の明確化に 向けた取り組み状況とその評価

地域医療構想を踏まえ市立病院では回復期病棟を新設しました また、本吉病院では在宅医療の患者の受け入れを積極的に実施しています

地域医療構想を踏まえた役割の明確化

病院	新改革プランにおける目標	H29年度取り組み状況	実績数値	評価
市立病院	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療構想を踏まえ、回復期病床を新設 	<ul style="list-style-type: none"> H29年10月に、現在地に新築移転 H30年1月から、回復期リハビリテーション病棟を稼働させた 回復期病床フルオープンに向けた、専門職種確保について検討 	稼働病床数／許可病床数 24床/48床	A
	<ul style="list-style-type: none"> 救急医療、周産期医療などを維持継続し、気仙沼地域の中核的病院として、本地域に不可欠な医療提供体制の維持 	<ul style="list-style-type: none"> 新築移転に伴い、診療制限を実施したものの、感染症、リハビリ、周産期、小児、救急、高度医療など公立病院として求められる役割を新築移転後も引き続き維持し、必要な体制を確保している 	—	A
本吉病院	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療の推進と市立病院との連携の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の介護事業所や施設との勉強会の定期的な開催 ケアマネージャーと毎月の情報交換の実施 	在宅患者数 159人	A

地域包括ケアシステム構築に向けて、フォーラムの講演を中心に医師・看護師を講師として派遣しています

地域包括ケアシステム構築に向けて果たすべき役割

病院	新改革プランにおける目標	H29年度取り組み状況	実績数値	評価
市立病院	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療連携室を中心とした、保健・医療・福祉・介護との連携 	<ul style="list-style-type: none"> がん市民講座の開催及び気仙沼・南三陸在宅医療福祉推進委員会、気仙沼市地域包括ケア推進協議会等への参加により、地域包括ケアシステム構築に向け、関係行政機関、団体等との連携を図っている 地域包括ケア市民フォーラム等関係機関主催行事への講師派遣 	—	C
	<ul style="list-style-type: none"> 介護事業所等の各種研修会に対して認定看護師を講師として派遣 	<ul style="list-style-type: none"> 地域保健医療福祉従事者研修会への感染管理認定看護師の講師派遣 緩和ケア看護師リンクナース養成研修への講師派遣 調剤薬局に対し、ストーマの取り扱いに関する勉強会への講師派遣 介護サービス担当者に対するストーマケア講習会の開催(大崎・石巻・南三陸・気仙沼合同) 	—	B
本吉病院	<ul style="list-style-type: none"> 住民との対話の機会を増やし、地域で必要とされる医療の把握に努め適切な対応ができるよう病院の体制を整える 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア市民フォーラムにて地域講演、地域住民と意見交換を実施 	実施回数 1回	C

繰入金の抑制・基準外繰入の解消に向け、両病院ともに支出の管理を意識した取り組みをしてきました

一般会計負担の考え方

病院	新改革プランにおける目標	H29年度取り組み状況	実績数値	評価
市立病院	<ul style="list-style-type: none"> 「経営安定・健全化に向けた方策と長期収支計画」に基づき、基準外繰入の解消を目指した取り組みを進める 	<ul style="list-style-type: none"> 企業債元利償還金の抑制を目指し、院内で医療機器整備委員会で医療機器、物品の購入費抑制に院内全体で取り組み、計画数値内の企業債発行額に抑えた 	<p>H29年度基準外繰入額 29百万円 (対前年 +4百万円)</p> <p>H29年度企業債発行額 1,301百万円 (計画値 1,620百万円)</p>	B
本吉病院	<ul style="list-style-type: none"> 料金収入の増加と経費の抑制に努め、繰入金の減額を目指した取り組みを進める 	<ul style="list-style-type: none"> 診療報酬について、新設された加算や管理料について勉強会を実施し、料金収入の増加に取り組んだ 日中の冷暖房機の使用抑制、公用車の使用抑制など細かな経費削減に取り組んだ 	<p>H29年度 繰入金 190百万円 (計画値 240百万円)</p>	A

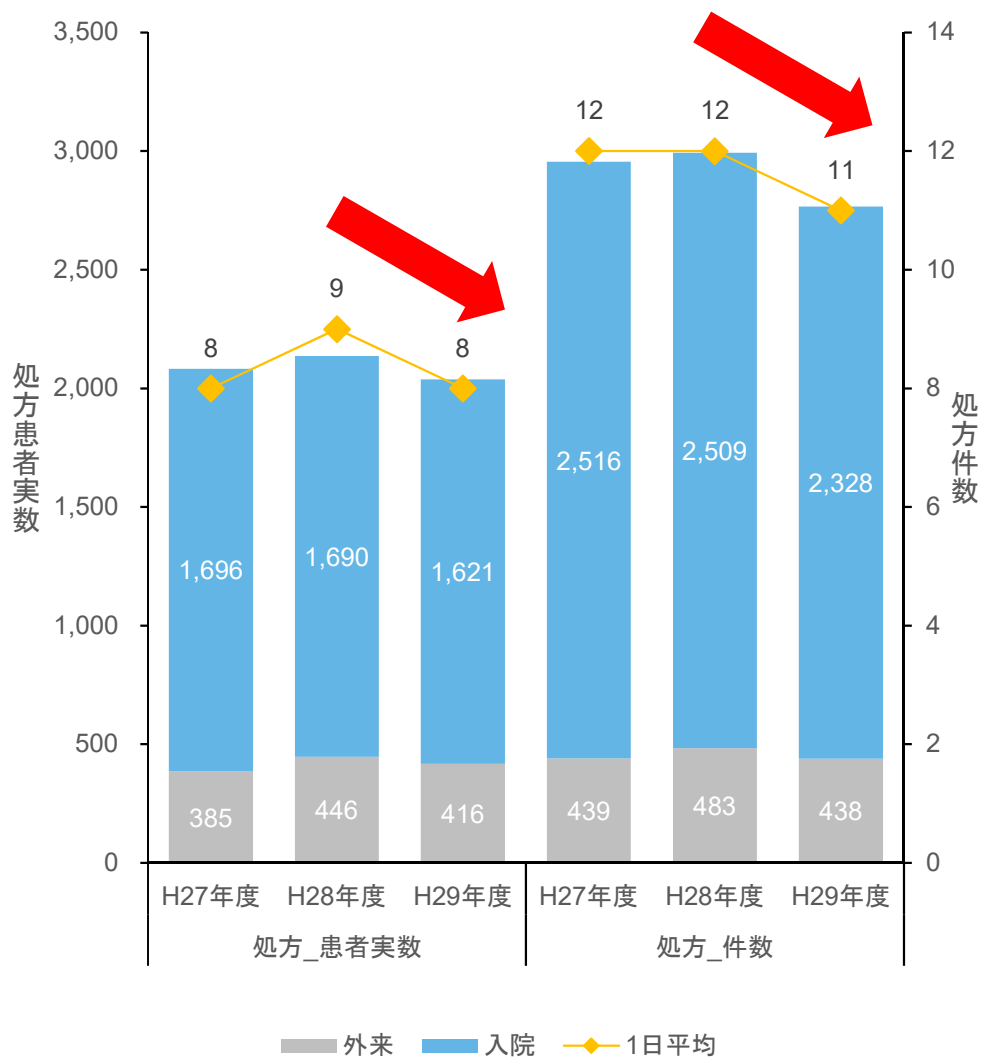
市立病院では、地域医療構想を踏まえ回復期病棟を新設した結果、リハビリ提供単位数が目標を大幅に上回りました

医療機能等指標に係る数値目標(市立病院)

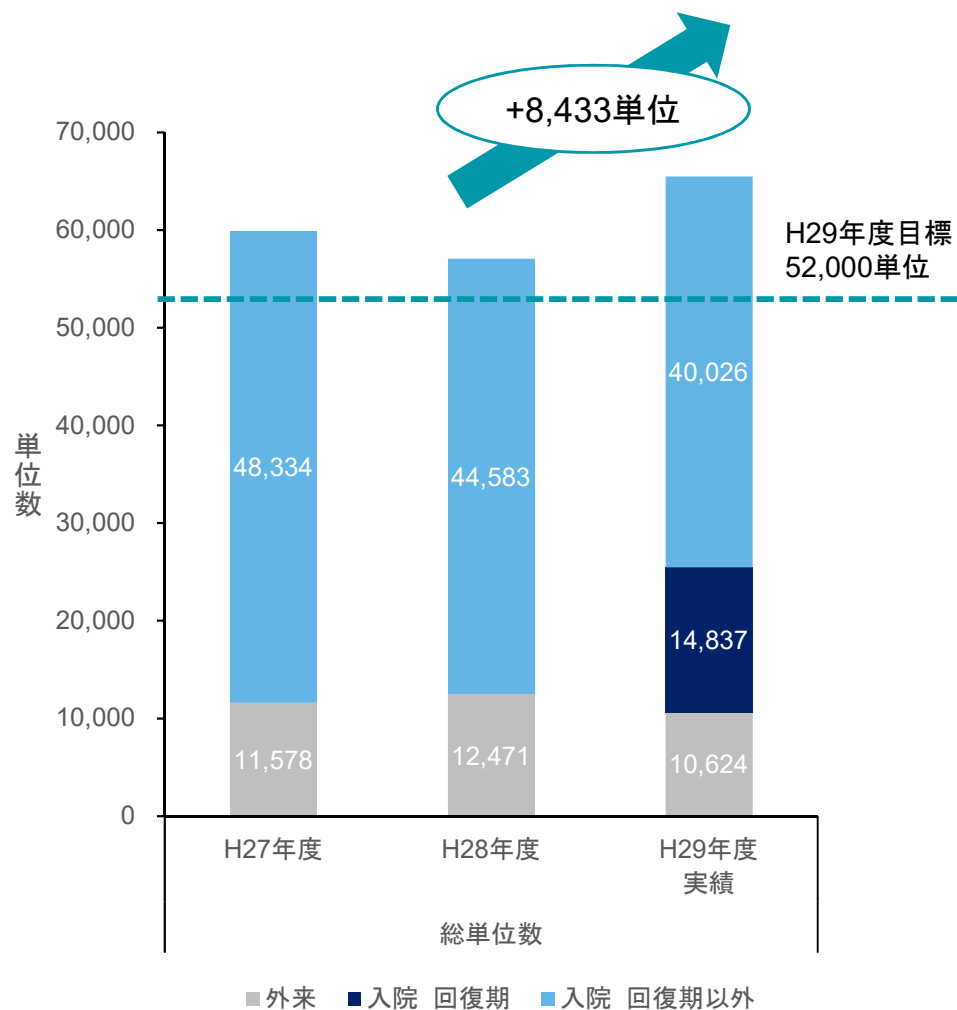
病院	新改革プランにおける目標	H29年度取り組み状況	実績数値	評価
市立病院	<ul style="list-style-type: none"> リハビリテーション単位数(単位) 目標値:52,000単位 	<ul style="list-style-type: none"> 回復期リハビリテーション病棟の新設に伴い、リハビリスタッフを増員 その結果、リハビリテーション単位数が大幅に増加 	65,487単位	A
	<ul style="list-style-type: none"> 分娩件数(件) 目標値:385件 	<ul style="list-style-type: none"> 新築移転に伴い、里帰り分娩の受け入れを制限したため、分娩件数が減少 母親学級、産後の授乳相談などを行い、安心して市内で分娩ができるように対応 	361件	B
	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研修医受入人数(人) 目標値:10人 	<ul style="list-style-type: none"> 東京及び仙台で開催されているレジナビフェアに参加 先輩研修医からの紹介の有効的な活用を実施 	11人	A

H29年度は移転の影響により、患者数、処方件数はともに減少しましたが、回復期病棟を新設したことで、総提供単位数は大幅に増加し目標を達成しました

リハビリテーションの処方実績について



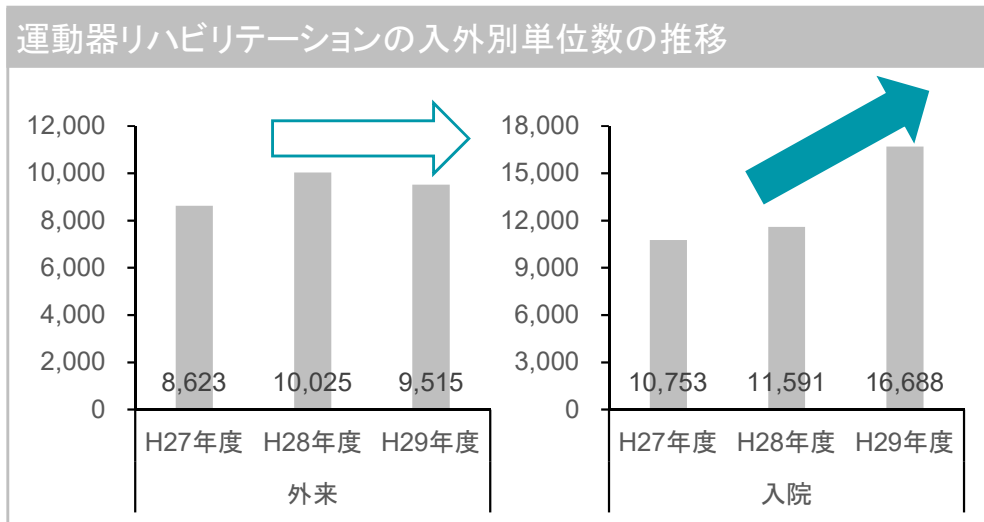
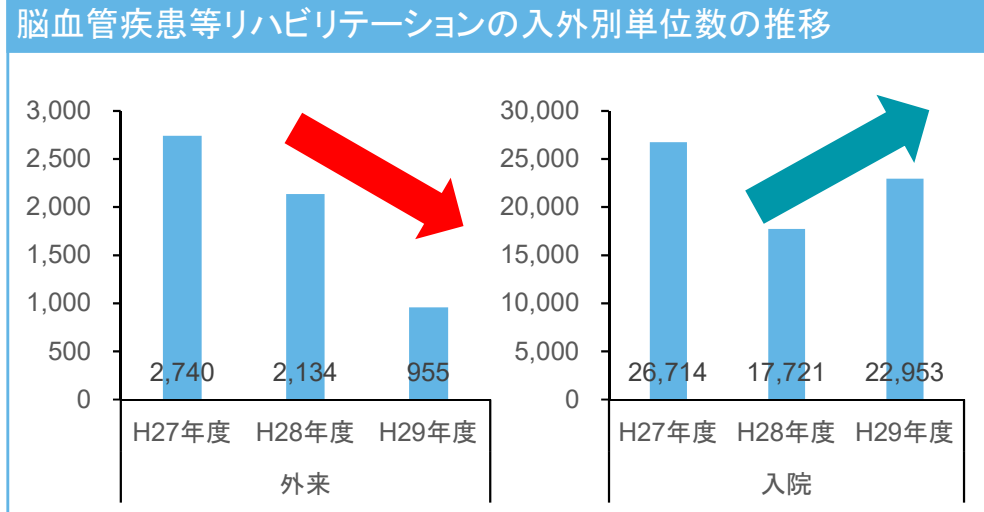
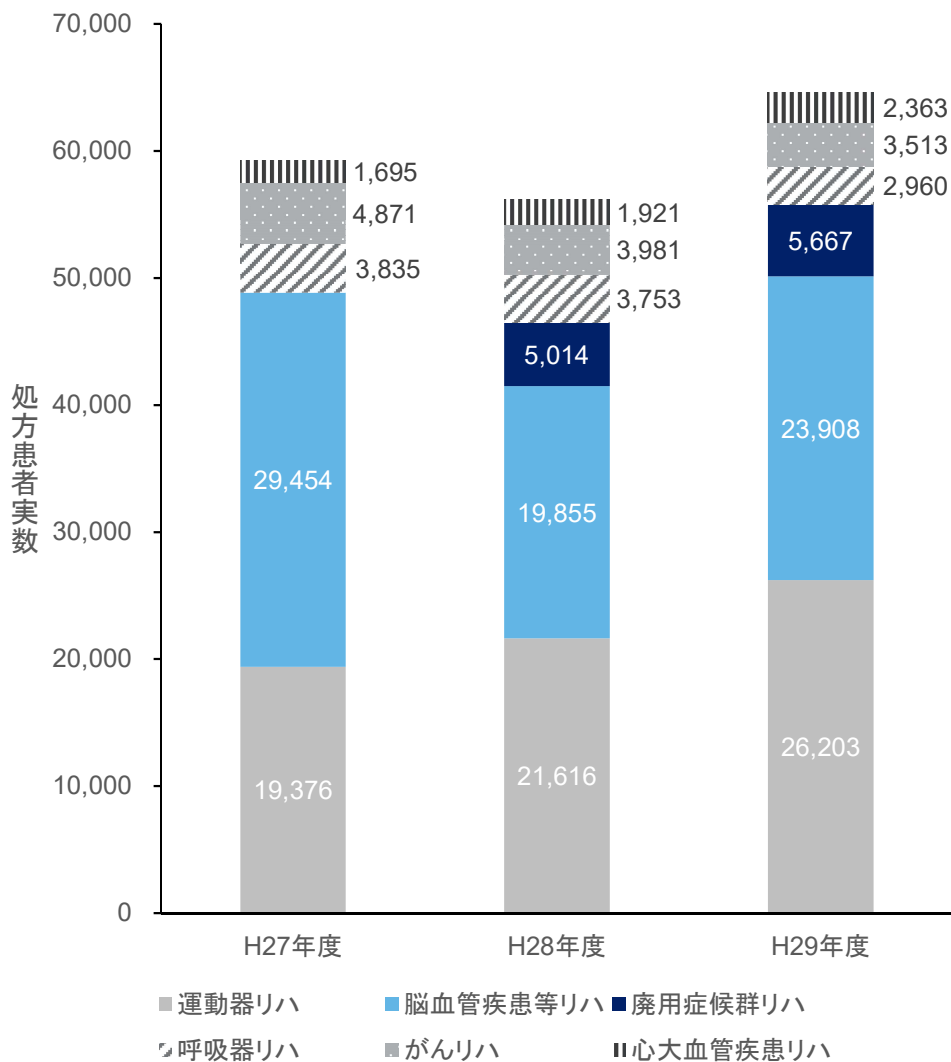
リハビリテーションの単位数の推移について



出所: 当院リハビリテーション室内部資料

回復期病棟が新設されたことで、入院における運動器と脳血管疾患等のリハビリテーションの提供単位数が増加しています

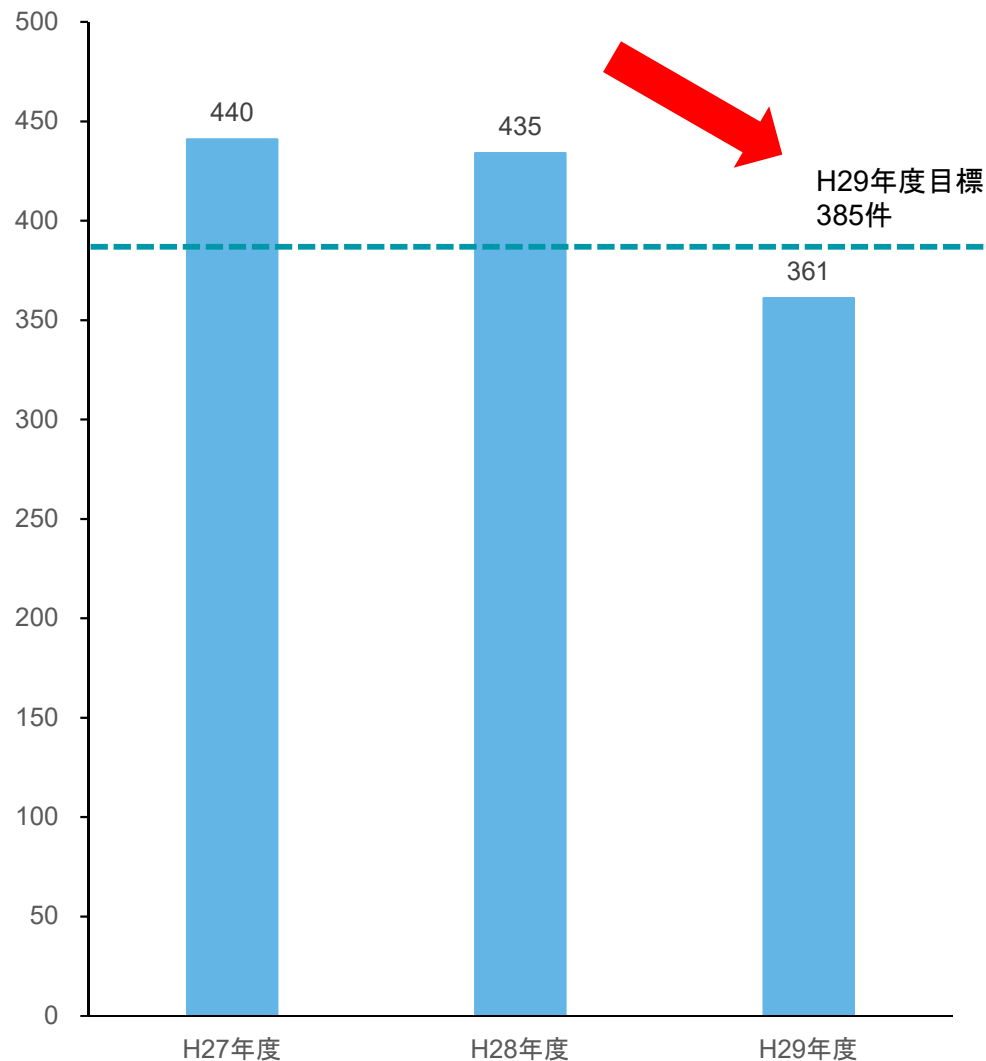
疾患別リハビリテーションの実績について



出所: H27年度～H28年度 医事システム統計データ

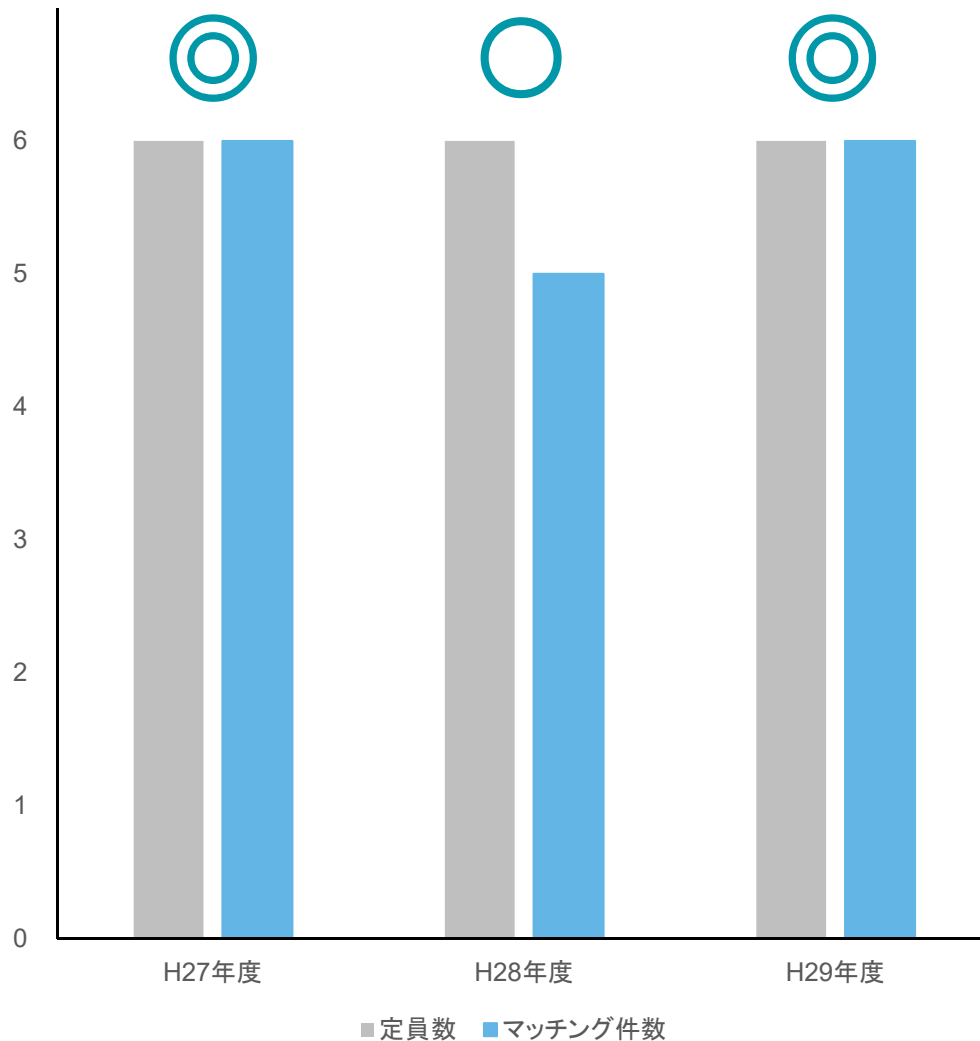
移転前までは、年間約440件の分娩に対応をしてきましたが、H29年度は新築移転のため、里帰り分娩の受け入れの制限を行った結果、分娩件数が減少しました

分娩件数の推移について



臨床研修医は定員に対してフルマッチしており、取り組み結果は良好でした

臨床研修医の受け入れについて



臨床研修医の受け入れについての取り組み

- 過去当院で臨床研修を行った医師に当院を選択した理由を聞くと、「大学の先輩医師が声をかけてくれた」、「地域の中核病院として、色々な症例を学ぶことができると聞いている」など、医師間の個人的なつながりが選択のきっかけとなったことがうかがえた
- 県の中心である仙台市と物理的に距離があるため、臨床研修医に対する処遇について、他病院よりも比較的好条件にするなどして対応をしている
- 内科系については、後期臨床研修プログラムを整備し、受け入れを行っていく必要があると考えている
そのため、H30年度には、内科系プログラムの整備を完了する予定である
- H30年度は研修医向けの病院紹介パンフレットの改定、ホームページによる広報の強化の検討を行う予定としている

本吉病院では、在宅医療の患者を中心に指標を設定し取り組んだ結果、すべての項目で目標を達成しています

医療機能等指標に係る数値目標(本吉病院)

病院	新改革プランにおける目標	H29年度取り組み状況	実績数値	評価
本吉病院	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療対象患者人数(人) 目標値:120人 	<ul style="list-style-type: none"> 1日に5,6件の訪問診療を実施 ケアマネージャーからの紹介,在宅ご利用者様からのさらなるご紹介をいただき,増加 	159人	A
	<ul style="list-style-type: none"> 在宅復帰率(%) 目標値:85.0% <p>在宅復帰率=自宅へ退院した患者数/自宅からの入院数-死亡退院数</p>	<ul style="list-style-type: none"> 在宅復帰のためのリハビリを充実させた 在宅介護サービス事業所との連携 介護施設との連携を図り,目標値85%を上回る在宅復帰率を達成 	86.6%	A
	<ul style="list-style-type: none"> 在宅看取率(%) 目標値:25.0% <p>在宅看取率=自宅+施設での看取数/全看取数</p>	<ul style="list-style-type: none"> 看取り場所は患者の希望を極力優先して対応を行ってきた その結果,在宅での看取りが増加 	36.8%	A
	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研修医受け入れ人数(人) 目標値:20人 <p>地域医療分野での1か月間研修を1人と数える</p>	<ul style="list-style-type: none"> 震災後に交流ができた様々な医療従事者や,研修実施医師からの紹介が増え,目標数の臨床研修医の受け入れを達成 	25人	A

H29年度は地域住民向けのフォーラムの中で、それぞれの病院で担っている機能についての説明を行いました

住民の理解のための取り組み

病院	新改革プランにおける目標	H29年度取り組み状況	実績数値	評価
市立病院	<ul style="list-style-type: none"> 回復期リハビリテーション病床の機能について、市民の理解を深めるよう広報していく 	<ul style="list-style-type: none"> 新病院移転後、在宅推進フォーラムで、回復期リハビリテーション病棟について、地域住民向けに説明を実施した 	実施回数 1回	B
本吉病院	<ul style="list-style-type: none"> 本吉病院が行う在宅医療の取り組みについて、本吉病院の取り組み等を周知して市民の理解を深めるよう努めていく 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア市民フォーラムを開催 地区会館で説明・講演を実施 	市民フォーラム 実施回数 1回 120人程参加	B

新改革プラン 再編・ネットワーク化に向けた取り組み状況と その評価

再編・ネットワーク化については、物流の効率化に関する検討を開始したものの、計画の実現性が低いという結論に至りました

再編・ネットワーク化について

病院	新改革プランにおける目標	H29年度取り組み状況	実績数値	評価
市立病院	<ul style="list-style-type: none"> 高度急性期は他の医療圏とも連携をしながら急性期対応を主とし、新病院では回復期リハビリテーション病棟を開設して、安心でより良い地域医療を提供 地域の医療機関との連携を緊密にしながら医療情報の共有化を充実し、物流等の効率化の検討を進める 	<ul style="list-style-type: none"> H29年度は、新病院にて回復期リハビリテーション病棟を開設(許可病床48床、稼働病床24床) リハビリ目的の患者をこれまで他医療圏の病院に紹介していたところを、当院で対応できるようになり、タイムリーでより良い地域医療を提供できる体制になった 近隣の医療機関と医療材料を中心とした物流拠点を作り、費用削減、医療機関ネットワークの構築を民間業者とともに検討を行ったものの、実現性が低く、検討は中止となった 	—	B
本吉病院	<ul style="list-style-type: none"> 地域の医療・福祉関係職員や介護事業所等との連携を深める 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア市民フォーラムにて地域の在宅医療、介護、福祉関連事業所と意見交換を実施 ケア会議を開催し、地域のケアマネジャーと毎月情報交換を実施 介護事業所と共同で勉強会を実施 地域の介護福祉事業者と本吉病院との間でタイムリーに相互に情報共有を行うために、引き続き地域医療連携システムを活用した連携を実施している 	—	C

新改革プラン 経営形態の見直しに向けた取り組み状況と その評価

経営形態の見直しについては、H30年度以降継続的に審議を行っていきます

経営形態の見直しについて

病院	新改革プランにおける目標	H29年度取り組み状況	実績数値	評価
市立病院	<ul style="list-style-type: none"> 新病院開院後のH30年度に「(仮称)市立病院経営形態検討委員会」を立ち上げ、相応しい経営形態について議論を進めていく 	<ul style="list-style-type: none"> H30年度の委員会立ち上げを目指して、院内で委員の選定、議題、結論を得る目標目安を検討 	—	D
本吉病院	<ul style="list-style-type: none"> 今後市立病院と一体となって議論を進め、地方公営企業法全部適用の検討を行っていく 			